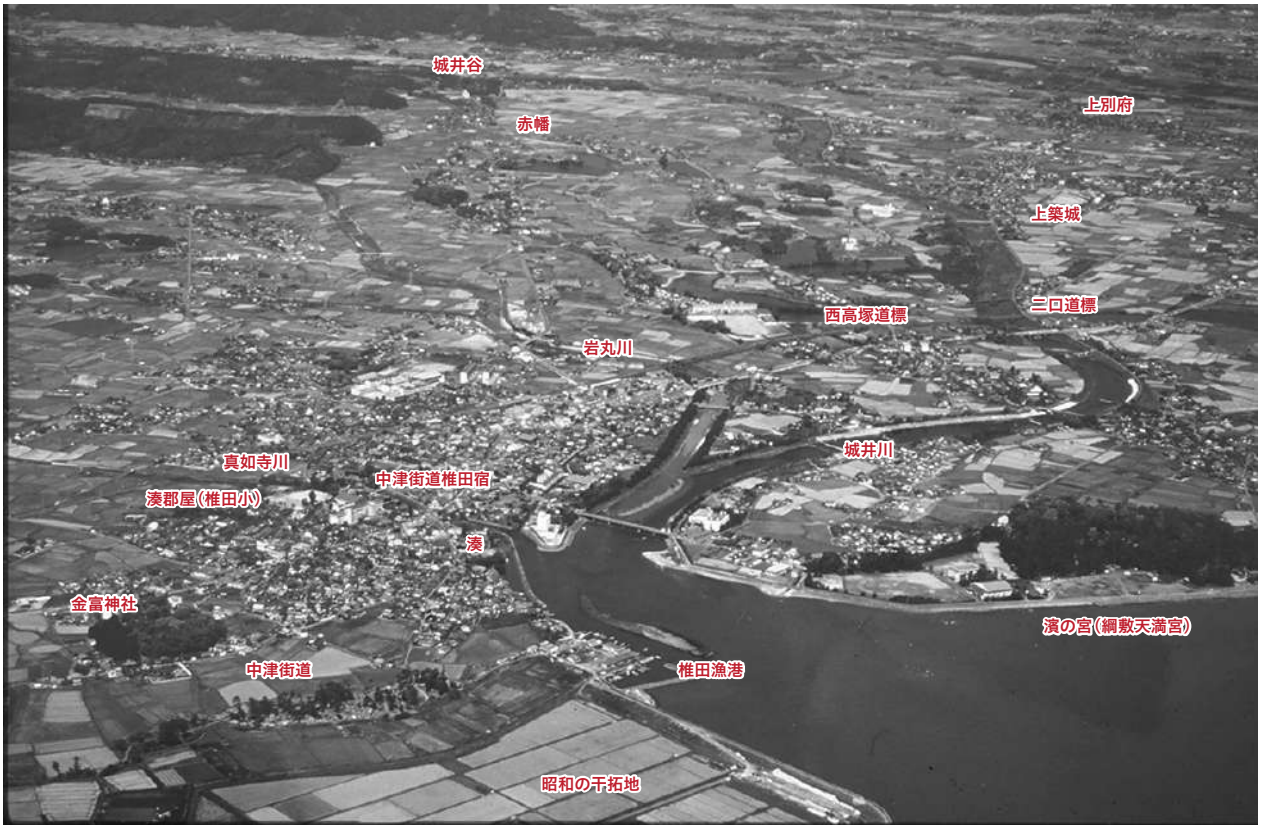
中津街道保存活用計画書

2021

築 上 町

中津街道保存活用計画書



中津街道椎田宿周辺航空写真（1981 年撮影）

中津街道椎田宿（築上町役場新庁舎より東を望む）2021 年撮影

手前の道路は国道 10 号線。その海側に平行して中津街道がある。右上に延塚記念館（椎田郡屋）と金富神社の社叢が見える。

中津街道椎田宿近景（延塚記念館より北を望む）2020 年撮影

ごあいさつ

平成 27 年（2015）３月、中津街道保存整備に向けた取組みを推進することを目的に、「温故知新・中津街道保存整備に関する決議」を築上町議会で議決しました。

これは江戸時代から昭和にかけて、政治と経済、人の往来と物流の拠点として栄えた中津街道椎田宿と海上交通の拠点「湊」、そして中津街道の脇街道など、歴史の道を後世に伝えることは築上町議会としても重要であると考えたからです。

本町には延塚記念館周辺や湊などに中津街道椎田宿の当時の面影がよく残されていますが、その名前さえも知られていないのが現状です。

中津街道椎田宿を多くの人々に知っていただき、現在の中津街道と重ね合わせ、街道の歴史を後世に伝える機運を高める一助になればという思いから、中津街道保存活用検討委員会を組織し、活発な討議を重ねてまいりました。

この中津街道保存活用計画書が有意義に活用され、本町のまちづくりや地域研究の一助になるとともに、さらには中津街道椎田宿が新たな観光資源の一つとされることを願っております。

令和　３年　３月

中津街道保存活用検討委員会
委員長　　塩　田　文　男

序　文

築上町は福岡県の東部に位置し、英彦山山系から周防灘の海岸線まで細長い谷地形が連なります。その海岸線を東西に横断する道路が中津街道です。

小倉の常盤橋を起点に、中津城までの約52㎞に及ぶ中津街道のちょうど中間地点に位置する椎田宿は、中津街道のほか、香春道、英彦山道（秋月往来）へ向かう人馬継立を行う宿駅として大きく発展し、政治的にも築城郡の中心地として郡屋が整備されました。隣接する湊は中世からの港湾都市で、郡内の年貢米を貯蔵する御蔵所が整備され、ここから海路、小倉城下や大坂の蔵屋敷まで米等が運ばれたといいます。

このように江戸時代を通して栄えた中津街道椎田宿は、昭和８年（1933）に国道10号線が開通したことで主要幹線道路としての役目を終え、徐々に忘れ去られてしまいました。

しかし、延塚記念館（椎田郡屋）周辺や湊から金富神社、石堂から有安・上ノ河内には中津街道の往時の景観が残されており、また香春道、求菩提道の沿線にも古い町並みを見ることができます。この度、これらの歴史の道の保存活用の指針として、中津街道保存活用計画を策定いたしました。

今後とも中津街道椎田宿を多くの方々に知っていただき、有意義な保存活用のため、努力をかさねてまいる所存です。

末尾となりましたが、計画策定にあたってご指導、ご協力をいただきました委員の先生方をはじめ、関係各位に心からお礼申し上げます。

令和　３年　３月

築上町長　　新　川　久　三

例　言

1. 本書は、築上町が平成 30 年度～令和 2 年度にかけて実施した、歴史の道中津街道のうち、町内沿線についての保存活用計画書である。
2. 本計画は、築上町が設置した中津街道保存活用検討委員会で検討を重ね策定した。
3. 本書に使用した図面・写真等は、特に出展など記載のないものは文化財保護係職員が撮影・作成したものである。
4. 本書に掲載した古写真は、旧椎田町商工会より寄贈されたポジフィルムほか築上町教育委員会が所蔵する写真を使用した。
5. 保存活用計画策定協力を（株）とっぺんが行った。
6. 本書の執筆・編集は、築上町教育委員会が行った。

目次

第Ⅰ章　計画策定までの経過と目的 …… 1

第１節　計画策定の沿革 …… 1
第２節　これまでの研究及び普及･顕彰活動 … 1
第３節　計画の目的 …… 1
第４節　委員会の設置・経緯 …… 2
1. 委員会組織体制 …… 2
2. 委員会開催の経過 …… 2

第Ⅱ章　中津街道の概要 …… 6

第１節　中津街道の歴史 …… 6
第２節　中津街道の現状 …… 6
1. 中津街道（小倉道・中津道） …… 6
2. 求菩提道（寒田道） …… 7
3. 香春道 …… 7
4. 英彦山道（秋月往来） …… 7
第３節　中津街道を物語る資料 …… 11
1. 街道要所に残る道標･里程標 …… 11
2.紀行文や日記など歴史資料に見る中津街道 …… 11
3.その他の歴史資料 …… 14

第Ⅲ章　中津街道のエリア区分と現状 … 15

第１節　エリア区分 …… 15
1.メインゾーン …… 15
2.サテライトゾーン …… 15
第２節　各エリアの現状 …… 16
1.中津街道椎田宿エリア …… 16
2.求菩提道エリア …… 27
3.香春道エリア …… 28
4.英彦山道エリア …… 31

第Ⅳ章　保存活用計画 ……32

第１節　基本理念……32
1.価値と魅力の共有 ……32
2.地域との連携 ……32
3.未来への継承 ……32
第２節　短期・長期保存活用事業の計画と実施34
第３節　短期保存活用事業計画 ……34
1.サイン事業計画 ……34
2.啓発･普及のためのソフト事業 ……39
第４節　長期保存活用事業計画 ……43
1.中津街道全体の整備 ……43
2.拠点施設の整備 ……43
第５節　旧街道や宿場の保存活用例……44

第Ⅴ章　資料編 ……50

第１節　温故知新・中津街道保存整備に関する決議 …… 50
第２節　中津街道保存活用検討委員会設置規定 ……51
第３節　歴史資料……53
1.古写真 ……53
2.中津街道椎田宿と湊の町並み ……64
3.香春道沿いに発展した築城と別府の町並み ……67
4.求菩提道沿いに発展した安武の町並み 68
5.中津街道関連史料　抄録 ……69

第Ⅰ章　計画策定までの経過と目的

第１節　計画策定の沿革

平成 27 年（2015）３月、築上町議会において歴史の道中津街道保存整備に向けた取り組みを推進する「温故知新・中津街道保存整備に関する決議」が発議され、全会一致で承認された。

これを受け、中津街道を広く周知し、また将来に亘って保存活用する上で、必要な事項の協議、計画等を策定することを目的に中津街道保存活用検討委員会を開催し、ここに中津街道保存活用計画を策定する。

第２節　これまでの研究及び普及・顕彰活動

・平成元年以降　各市町村史誌で中津街道に関する研究が進展。
・平成 12 年（2000）『中津街道』（豊前の街道をゆく会・足立山麓文化村編）刊行
　この頃から「中津街道」呼称が一般化。
・平成 20 年（2008）豊の国風景街道推進協議会　設立
・平成 25 年（2013）「京築めぐり」（京築連帯アメニティ都市圏推進会議）中津街道を歩く
・平成 28 年（2016）滝ノ本橋周辺の県道改修時に、中津街道滝ノ本橋サイン設置。延塚記念館前に中津街道と椎田郡屋サイン設置。
・平成 29 年（2017）企画展「中津街道と築上町の近代」開催（船迫窯跡公園：来館者 673 名）
・平成 30 年（2018）中津街道椎田宿リーフレット制作
　（本書 40 頁）

＊その他、民間団体において中津街道史跡探索ウォーク、伊能忠敬 100㎞ウォーク、建築士会による建築物調査と灯籠を設置する取組などがなされてきた。

第３節　計画の目的

築上町の椎田駅北側はかつて、陸海交通の要衝地だった。現在の JR 椎田駅前国道 10 号線北側は、かつて中津街道椎田宿で、当時の築城郡の政務を司る築城郡屋（現延塚記念館）や小倉藩の重臣が休憩・宿泊する御茶屋が設けられた。郡御蔵所があった椎田湊は築城郡内の年貢を集積し、小倉城下へ船輸送する拠点として栄えた。また椎田宿は、西側で香春道・求菩提道（寒田道）・英彦山道（秋月往来）に分岐することから、中津街道だけでなく、これら脇街道の人馬継立も行い、まさに築城郡の中心地で、数多くの豪商や宿屋・商店が軒を並べ、政治・経済・交通の中心地として繁栄した。

こうした街道は、現在も生活道路として機能し、椎田宿や湊、および脇街道の築城や安武の町並みは、かつての面影を今に伝える。

現在は国道 10 号線の開通でかつてのルートが分かりづらくなり、町並みや景観も多く失われてしまったが、中津街道の存在を一般に周知・普及することと、その歴史を知る喜びや郷土への愛着を育み、さらに、中津街道を生かした町づくりや地域振興へと発展させることを本計画の目的とする。

第４節　委員会の設置・経緯

中津街道保存活用計画策定にあたり、学識経験者等からなる、中津街道保存活用検討委員会を設置し検討した。

1. 委員会組織体制

委員長	塩　田　文　男	築上町議会議員	
副委員長	尾座本　雅　光	福岡県文化財保護指導委員	
委　員	鞘　野　希　昭	築上町議会議員	
委　員	森　田　郁　生	豊の国風景街道推進協議会理事	
委　員	田　中　孝　秀	福岡県建築士会理事	
委　員	安　部　晋　司	金富神社宮総代	
委　員	奥　畑　俊　昭	京築教育事務所　主任社会教育主事	
委　員	折　本　美佐子	築上町教育委員会教育委員	
委　員	信　田　芳四水	地域ボランティア活動者	
委　員	萬　谷　　弘	地域ボランティア活動者	
事務局	新　川　久　三	築上町長	
	久　保　ひろみ	築上町教育委員会教育長	（前）亀田　俊隆
	古　市　照　雄	築上町教育委員会生涯学習課課長	
	髙　尾　栄　市	築上町教育委員会生涯学習課参事	
	馬　場　克　幸	築上町教育委員会文化財保護係長	
オブザーバー	桑　野　　智	築上町役場まちづくり振興課長	（前）種子　祐彦
	神　崎　秀　一	築上町役場建設課長	

2. 委員会開催の経過

○第１回　中津街道保存活用検討委員会

日時：平成 31 年２月 13 日

場所：築上町役場本庁第１・２会議室

内容：1.中津街道保存活用検討委員会の目的の検討内容
2.これまでの経緯
3.保存活用の基本理念
4.中津街道の概要

5.築上町の中津街道の現状
6.中津街道ほか脇街道を物語る資料
7.現状と今後の課題

○第２回　中津街道保存活用検討委員会
日時：令和元年５月８日
場所：築上町役場本庁第１・２会議室
内容：1.現地視察（築上町役場→延塚記念館→湊の町並み→金富神社）
2.視察後の意見交換
3.今後の取り組み
⑴説明看板の整備
⑵中津街道の魅力発見…子どもたちにも
わかる身近な中津街道発信

○第３回　中津街道保存活用検討委員会
日時：令和元年９月４日
場所：築上町役場本庁第１・２会議室
内容：1.短期的保存活用計画
⑴サイン計画
⑵啓発・普及のためのソフト事業
・学校教育・社会教育との連携
・街道の雰囲気づくり
・商工観光との連携
2.長期的保存活用計画
⑴中津街道全体の整備
⑵拠点施設の整備

○第４回　中津街道保存活用検討委員会
日時：令和元年12月４日
場所：築城支所第４・５会議室
内容：1.保存活用計画策定と今後の計画について
⑴令和２年11月までに報告書刊行。
事業の一部を令和３年度当初予算要求。
2.保存活用計画の検討
⑴目次の確認
⑵第Ⅲ章の補足説明
⑶第Ⅳ章　1.サイン計画の検討
＊久保委員が11月１日付で築上町教育長に就任。
奥畑俊昭氏（京築教育事務所）を後任。

○第５回　中津街道保存活用検討委員会

日時：令和２年２月 26 日

場所：築城支所第４・５会議室

内容：保存活用計画の検討

⑴椎田停車場線の名称は「延塚大通線（のぶつかおおどおりせん）（都市計画道路）」都市政策課に確認。

⑵築上町内指定文化財一覧（国・県・町指定）の提示。

⑶中津街道椎田宿のイメージ戦略とブランディング。

⑷フォント・ロゴマークの素案を業者委託で作成する。

⑸令和２年 11 月目途で『保存活用計画書』完成。一部を令和３年度予算に反映。

⑹視察研修の実施。

⑺中津街道椎田宿のよみ。「しいだしゅく」「しいだじゅく」について調査継続。

⑻令和２年度以降は絵や図を入れた、わかりやすい資料づくりに努める。

○第６回　中津街道保存活用検討委員会

日時：令和２年８月 26 日

場所：築城支所第４・５会議室

内容：保存活用計画の検討

⑴Ｂ案（松に青海波）とＨ案（シ文字を基にクロマツをイメージ）にもう少し中津街道椎田宿らしさをアレンジすること。

⑵長期保存活用事業計画の中で景観を守る意味で、川や橋や樹木の保全について追記してはどうか。

⑶街道沿いの水準点の「見える化」を図るサインの設置。

⑷長期保存活用事業計画については将来を見据えて、実現不可能と思われることも構想として意見をたくさん挙げて欲しい。次回会議で発言いただきたい。

⑸現地研修について、中津街道椎田宿の活用に活かせる場所を検討すべき。

⑹中津街道から鬼塚が見える景観保全も行っていただきたい。

⑺湊から真如寺に至る古道としての小原道について、中津街道との接点に「小原道入口」のサイン表示を。

Ｂ案

Ｈ案

○第７回　中津街道保存活用検討委員会

日時：令和２年 11 月 18 日

場所：築城支所第１会議室

内容：保存活用計画の検討

⑴ロゴマークとフォント案について

⑵長期保存活用事業計画について

⑶街道沿線の樹木や橋などの保存活用

⑷現地研修について

○第８回　中津街道保存活用検討委員会

日時：令和３年２月 17 日

場所：築上町役場４階委員会室

内容：保存活用計画書の最終確認

⑴図に東八田の水準点を追加する。

⑵大日本沿海輿地全図のトリミング位置を変更する。

⑶第Ⅴ章第３節2.中津街道椎田宿と湊の町並みに江戸時代の町割り図を追加する。

⑷町長への計画書提出日程について（3 月下旬予定）

⑸研修の実施について（4 月以降適切な時期に実施。場所は事務局で検討）

⑹集合写真撮影（築上町役場新庁舎１階ロビー）

中津街道保存活用検討委員会委員のみなさん・新川町長・久保教育長（2021 年撮影）

第Ⅱ章　中津街道の概要

第１節　中津街道の歴史

江戸時代になると、江戸日本橋を起点に五街道（東海道・中山道・日光街道・奥州街道・甲州街道）が整備され、九州にも長崎街道をはじめとする八街道と脇往還が整備された。

中津街道は、小倉城下の常盤橋から中津城下まで全長 52㎞におよぶ江戸時代初期に整備された主要幹線道路で、全長 52㎞のうち、約 8㎞は築上町を通り、町内各所で求菩提道（寒田道）・香春道・英彦山道（秋月往来）に分岐する。

明治９年（1876）から昭和８年（1933）まで、中津街道は国道の一部として機能した。明治 30 年（1897）には豊州鉄道柳ヶ浦線（現 JR 日豊本線）が中津街道に沿って鉄路を敷設し、昭和 10 年（1935）鉄路に平行した直線の国道が建設され、現在も生活道路の一部として機能している。

なお、中津街道という呼称は近年一般的となった通称で、記録では中津往来、中津口往還、小倉往来などと行先名を冠した名称で呼ばれていた。

常盤橋（小倉北区室町）

小倉橋（大分県中津市）

第２節　中津街道の現状

湊地区の区間が一部、農地整備のため消失しているものの、そのほかの地域ではルートが比較的よく残っている。また、湊の町並みは江戸時代から昭和初期の建物も残り、椎田宿の往時の面影を今に伝える。

築上町では、中津街道から分岐する求菩提道、香春道、英彦山道（秋月往来）の街道沿いが在郷の町として発展した。さらに、築上町の湊は城井川、岩丸川、真如寺川が集まる港湾の海上交通と街道陸路の要衝地として発展してきた。以下、各街道について概略を記載する。

1. 中津街道（小倉道・中津道）

築上町の北西から南東方向に横断する。築城基地内と湊から上り松で農地整備等により一部区間が消滅するものの、その他の箇所は現在でも生活道路の一部として機能しており、比較的良好に残っ

ている。城井川河口には現在「二口橋」が架かるが、江戸時代に橋はなく、浅瀬を歩いて渡ったことが記録からわかる。

2. 求菩提道（寒田道）

JR 日豊本線西高塚踏切（竹本モータース前）で分岐。火葬場横の上・下罠田池前を通り、県道椎田勝山線を横断して広末に抜ける。さらに赤幡神社前を通り、城井川を渡り左折し、現在の県道寒田下別府線を南下する。旧寒田小学校から乳呑坂越えで求菩提山に至る。

3. 香春道

城井川西側の二口の道標で分岐。城井川に沿って上り、上築城四辻・築城小学校付近・上別府集落を経て、椎田勝山線（県道 58 号線）に並走する。行橋市天生田からみやこ町勝山の新町宿を通り、七曲峠越えで香春に至る。

4. 英彦山道（秋月往来）

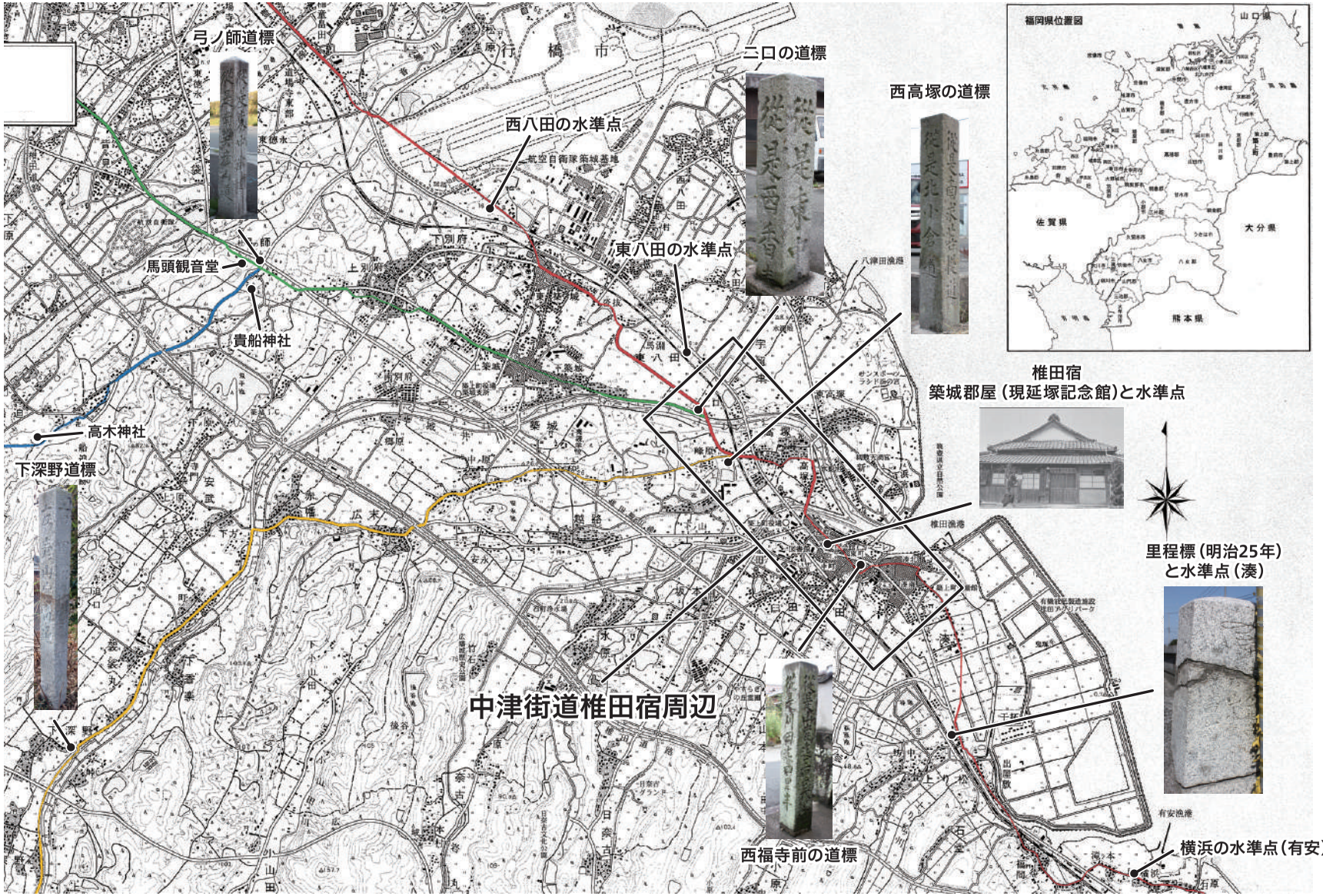
弓ノ師のメタセの杜交差点南に平行する香春道から分岐し、船迫から山鹿宿（みやこ町犀川）・油須原宿（田川郡赤村）を経て英彦山へ向かう。途中の油須原宿から猪膝宿（田川市）を経て秋月街道に接続するための脇街道である秋月往来へ接続する。

江戸時代の九州主要街道（アクロス福岡文化誌 1「街道と宿場」から地図を編集）

中津街道の経路（常盤橋～中津口、苅田、大橋、椎田、松江、八屋、中津）
※豊前市四郎丸から分岐する勅使道（宇佐使）

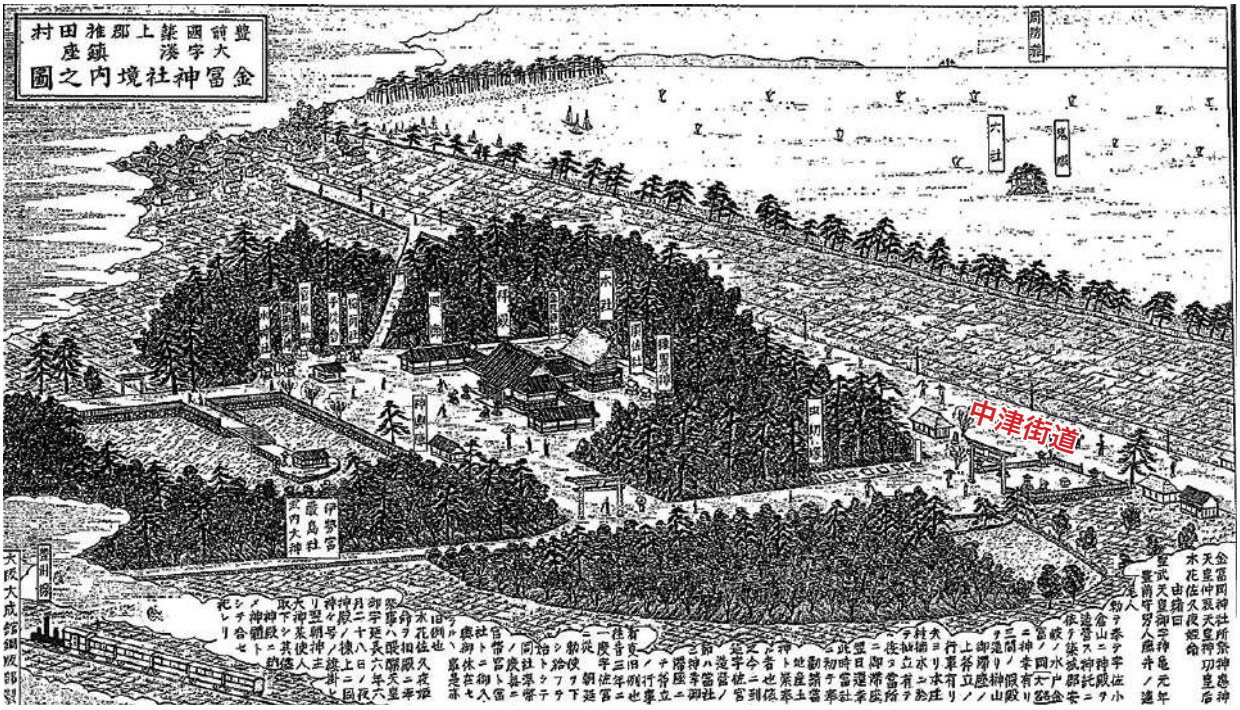
脇街道の分岐（『築城郡絵図』江戸時代末）

中津街道椎田宿周辺（『築城郡絵図』江戸時代末）



築上町内における中津街道

中津街道と香春道・求菩提道　『城井谷絵図』（部分）
※元禄７年（1694）に描かれたものを文政７年（1824）に写した絵図



金富神社と中津街道（『大日本名所図録』明治 31 年）

第３節　中津街道を物語る資料

1. 街道要所に残る道標・里程標

⑴湊（貝曲）の里程標（明治 25 年）

⑵西福寺前の里程標には、山鹿（みやこ町犀川）まで三里三十一丁（14.8㎞）、苅田まで四里半（17.6㎞）、松江（豊前市）まで一里八丁（4.7㎞）とある。

⑶西高塚道標（中津街道から求菩提道に分岐）

⑷二口道標（中津街道から香春道に分岐）

⑸弓ノ師道標（香春道から英彦山道に分岐）

⑹下深野道標（求菩提道・英彦山寒田道から田川道分岐。明治 24 年）

⑴ 湊（貝曲）

⑵ 西福寺前

⑶ 西高塚

⑷ 二口

⑸ 弓ノ師

⑹ 下深野

2.紀行文や日記など歴史資料に見る中津街道

ここでは、中津街道椎田宿について記した歴史資料を紹介する。なお、（１）（２）（１１）～（１４）については第Ⅴ章　資料編（本書 69 頁以降）に本文の抜粋を掲載しているので参照いただきたい。

⑴菱屋平七『筑紫紀行』

享和２年（1802）４月 21 日に椎田宿を通った。旅宿・茶屋・道路事情が詳しく書かれており、当時の椎田宿周辺の様子がよくわかる。

⑵伊能忠敬『測量日記』（大日本沿海與地全図　本書 14 頁）

文化７年（1810）１月 20 日に湊村、文化８年（1811）１月 22 日に椎田止宿本陣客館に宿泊。

⑶築城郡絵図（町所蔵）

江戸時代末のものと考えられ、中津街道や脇街道のようすがよくわかる。

⑷城井谷絵図（町所蔵）

享保８年（1723）城井川河口の善人川原（現県道）開発前の求菩提道安武のルートがわかる。（本書 10 頁）

⑸松尾家旧蔵文書（町所蔵）

椎田宿にあった郡屋（現　延塚記念館）のことなどがわかる。

⑹大日本名所図録（明治 31 年）

かつて金富神社の海側を通っていた中津街道の往来のようすがよくわかる。（本書 10 頁）

⑺寛永 6 年（1629）「日帳」（惣奉行の記録）

三斎（細川忠興）が鷹狩りのために頻繁に椎田へ来たことが記される。この記録から一里塚の整備など細川時代に行われたことがわかる。

⑻仏山堂日記（個人所蔵）

京都郡上稗田村（現行橋市）に私塾「水哉園」を開いた漢詩人で教育者の村上仏山が天保 15 年（1844）から慶応 2 年（1866）に記した日記。弘化元年（1844）中津藩の兵学者「八条半坡」を訪ねた際、湊の塩屋伝五郎（塙氏）宅で酒食の接待を受け、中津街道を南下した記述あり。

⑼神家文書（個人所蔵）に見る宇佐奉幣使

元治元年（1864）に宇佐神宮造営完了に伴う勅使派遣が行われた際のもの。宇佐奉幣使が中津街道椎田宿を通過するに先立ち宿場の整備が行われたことや、この頃すでに郡屋（役所）が湊に移転していたことがわかる。（郡屋の瓦の写真が本書 14 頁）

⑽田能村竹田「旗亭会飲図」※旗亭とは宿屋、料理屋のこと。

田能村竹田（1777 － 1835）は現在の大分県竹田市出身の文人画家。天保 3 年(1832)10 月下旬から 11 月中旬まで、豊前岸井手永の大庄屋「曾木士功」宅に滞在した後、椎田駅（中津街道椎田宿）で園雪斎と邂逅（かいこう）した後、大橋、小倉を経て大里から渡海した。（右写真）

田能村竹田「旗亭会飲図」
（天保 3 年 1832）

⑾各務支考『西華坊梟日記』

蕉門十哲の一人、各務支考が元禄 11 年（1698）九州を旅した際の日記。小倉から中津街道を南下し、大橋に宿泊後、浜宮で一夜を過ごし、椎田宿周辺の文化人が集まったという。「昼がほよ　今宵はここに　はまの宮」の句を残す。

⑿野田成亮『日本九峰修行日記』

文化 9 年（1812）～文政元年（1818）、日向（宮崎県）佐土原の山伏が全国の名山霊跡を訪れた際の日記。求菩提道経由で西高塚道標から中津街道を通り、湊村で宿泊。金富神社で休息中に弁当を盗まれ一句。「昼食を　とられて今日の　寒さ哉」

⒀貝原益軒『豊国紀行』

元禄 7 年（1694）、黒田藩の儒学者、貝原益軒が黒田氏の戦跡調査をまとめたもの。城井谷の調査後、椎田宿に宿泊した益軒は、中津街道を次の宿駅、松江に向けて出発した。松江と八屋は片駅で、椎田から中津へ向かう際は松江が、中津から椎田に向かう際は八屋が宿駅であったことを物語る。

⑭江間氏親『両豊海上行嚢抄』

元禄９年（1696）、小倉城下から九州東岸を船で南下した際の旅行記。紀行文の中でも、海上からの視点で書かれている点が珍しく、当時の港湾の様子を知る好資料。「下関より椎田四里（約 16㎞）川湊口浅し。奥へ入ては、大汐には大船も入る也。荷入船も繋る。奥深し。」とある。大潮の満ち潮時には真如寺川を椎田橋付近まで大型船が入ることができた。

⑮築城郡湊村戸別図（明治 12 年 1 月改）（個人所蔵）

明治初期の中津街道、湊の町並みがわかる。（下写真）右写真は金富神社部分を拡大したものだが、当時の中津街道と社叢との位置関係がよくわかる。現在の国道 10 号線は右写真の右上部分を中津街道と並走する。

築城郡湊村戸別図（明治 12 年 1 月改）

3.その他の歴史資料

⑴文久四年銘　三階菱紋　鬼瓦

元治元年（1864）宇佐奉幣使の下向に先立ち中津街道椎田宿が整備された際に郡屋または御茶屋の瓦を新調したもの。（本書 12 頁「神家文書」）

⑵湊の銘酒　濵の壽

湊は廻船問屋や造酒屋が多く、瀬戸内海航路を利用して大坂方面との交易で栄えた。江戸時代に上ン濵屋・下ン濵屋として繁栄した柳井酒造の濵の壽は湊を代表する銘酒である。

⑶大日本沿海與地全図（旧築城郡を拡大）

椎田村と湊村にそれぞれ赤い星印が描かれるのは、天体測量を行ったことを示す。伊能忠敬は地図の精度向上のため、天体測量から緯度経度を割り出した。（本書 11 頁）

⑷岩田屋札

椎田宿の豪商　岩田屋が藩の許可を得て発行した紙幣。

第Ⅲ章　中津街道のエリア区分と現状

第１節　エリア区分

中津街道椎田宿周辺は現在も生活道路として機能しているが、新設された国道 10 号線が街道を分断したため、ルートがわかりにくく、家屋の建替えによりかつての面影と景観が損なわれている。また、湊地区や築城地区・安武地区に残る、街道沿いの古い町並みも、老朽化による家屋の建替えや空き家が増えている。

町内を通る街道沿線の町並みを「1.中津街道椎田宿エリア」「2.求菩提道エリア」「3.香春道エリア」「4.英彦山道エリア」の４エリアに分け、下記区分によりゾーニングした。

1.メインゾーン

⑴中津街道椎田宿

2.サテライトゾーン

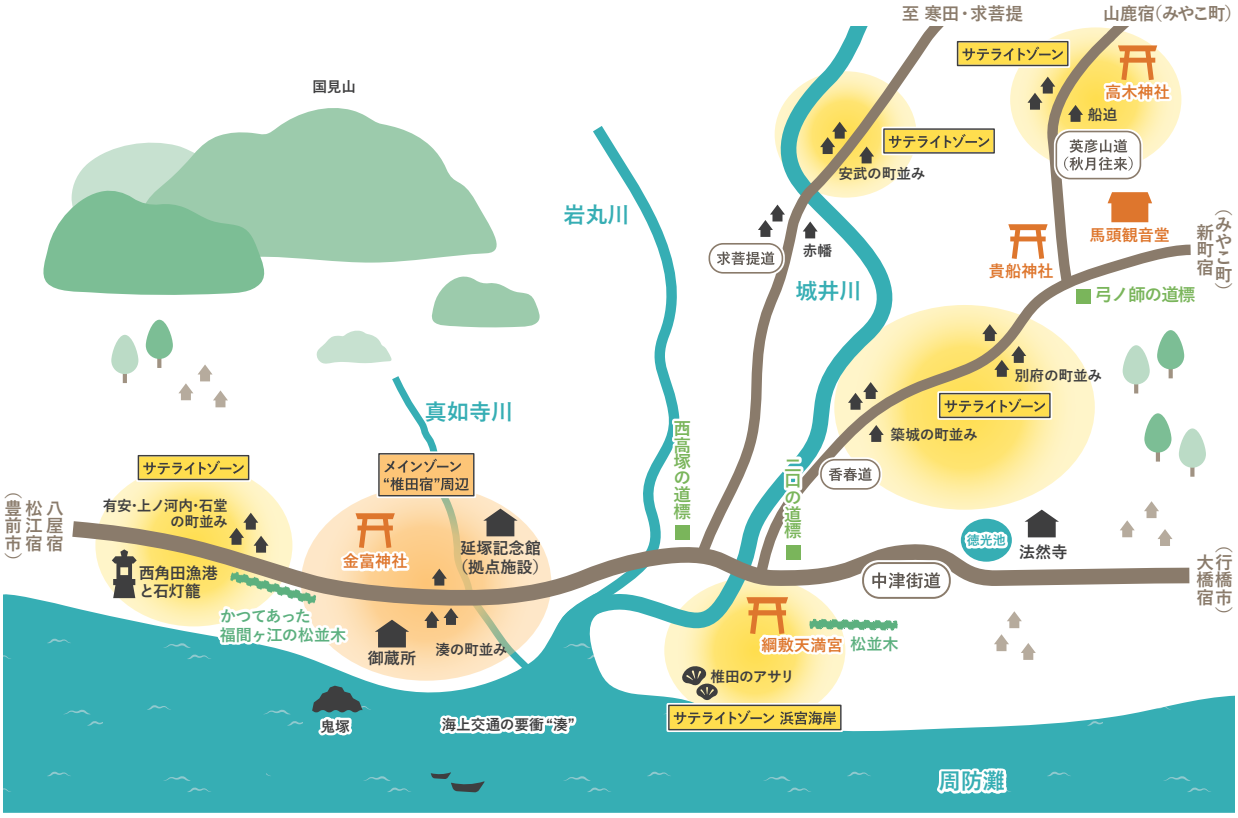
⑴有安・福間・上ノ河内・石堂の町並み（中津街道）

⑵浜宮海岸（中津街道）

⑶安武の町並み（求菩提道）

⑷築城・別府の町並み（香春道）

⑸弓ノ師から船迫と高木神社（英彦山道）



エリア別のゾーニング図

第２節　各エリアの現状

ここでは、各エリアの現状について提示する。

1.中津街道椎田宿エリア

築城基地周辺⇒延塚記念館周辺⇒湊の町並み⇒上り松・石堂・有安⇒西角田漁港

⑴築城基地から JR 築城駅前、徳光池を経て下築城の二口橋へのルートは、道は残るものの、かつての面影は全く見られない。
⑵岩丸川（現西之橋）を渡り、延塚記念館にかけてのルート、および天神交差点から真如寺川へのルート、湊から金富神社にかけてはかつての面影が残る。
⑶アグリパーク入口付近は農地整備により道も消滅。
⑷石堂から有安、滝ノ本橋を経て西角田漁港に至るルートも道沿いに、わずかながら、かつての面影が見られる。

西八田の水準点周辺（奥は航空自衛隊築城基地）
築城基地よりも行橋市側（写真では奥側）に、仲津郡と築城郡の境界である音無川がある。

築城駅前通り

法然寺と徳光池周辺（築城郡絵図）

法然寺と徳光池周辺

東八田

眞光寺から西之橋

岩丸川（西之橋）と椎田宿（築城郡絵図）

菱屋平七『筑紫紀行』(本書 69 ページ)には「椎田川（岩丸川）石橋を渡せり。橋を渡れば椎田なり」とある。

岩丸川にかかる西之橋

西之橋から椎田宿へ

椎田宿　小園川にかかる新町橋

椎田郡屋跡（現　延塚記念館）

天保７年（1836）の飢饉で根付料の返済を独断で免除し、人々を救った延塚卯右衛門はその責任を負ってここで切腹した。

椎田宿の豪商　旧尾崎屋と旧岩田屋の跡

右手前の建物が旧尾崎屋跡。その左奥に旧岩田屋があった。現在は空き地になっている。

天神交差点周辺

丸金旅館（旧城岩屋）と椎田宿の町並み

江戸時代から昭和初期の商家などの建物が現存する。

椎田宿の豪商　旧日田屋と椎田橋

椎田橋（真如寺川）と湊

椎田宿と湊（築城郡絵図）

菱屋平七『筑紫紀行』（本書 69 ページ）には椎田宿と湊について「人家百五十軒ばかり海辺に立つつけたり。（中略）宿屋茶屋もあり。これも小倉の御領にて、駅の宿なり。宿の出口に細き川（真如寺川）あり。川を渡れば湊村…」とある。

旧家が現存する湊地区

馬の手綱を繋ぐ金具
鮮魚店尾崎屋跡。
豪商　旧尾崎屋とは別。

魚徳の煙突

湊の船着き場の堤防

湊の町並みが御蔵所周辺でカーブする箇所
中津街道はトタン葺屋根建物付近で鉤の手に屈曲する。絵図ではゆるやかなカーブで描かれる。

湊の町並みから金富神社にかけて（築城郡絵図）

金富神社と中津街道

金富神社の句碑（椎田宿の豪商　旧日田屋）

金富神社の狛犬
（椎田宿の豪商　旧日田屋奉納）

金富神社鳥居前（国道 10 号線側）

金富神社（南側から）

農地整備により中津街道が消滅（金富神社南側）

上り松から有安（福間）にかけて（築城郡絵図）

上り松川にかかる出屋敷橋

上り松川と出屋敷橋

上り松から石堂

左写真は本書 43 ページ写真とほぼ同じ位置で撮影。かつては松並木があったが枯れ、一部にはその後、桜の木が植樹されたという。

中津街道（石堂～上ノ河内）

海神社前（福間）

海神社から見た中津街道沿線の石堂と有安（福間）の町並み

中津街道（上ノ河内～福間）

標柱式サイン

中津街道（滝ノ本橋　周辺）

滝ノ本から有安（横濱）にかけて（築城郡絵図）

滝ノ本橋　周辺（上ノ河内）

滝ノ本橋　周辺（上ノ河内）

中津街道　滝ノ本橋（県道新設工事前）

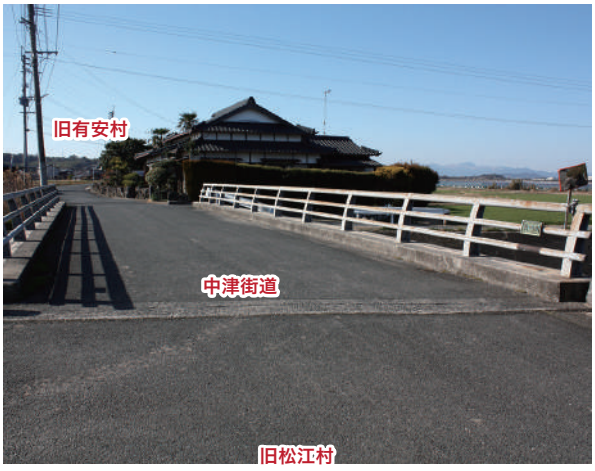
中津街道　滝ノ本橋　説明サイン

滝ノ本橋と説明サイン

滝ノ本　交差点

有安（横濱）

有安（横濱）



角田川橋（旧有安村と旧松江村の境界）

中津街道沿いの西角田漁港と石灯籠（昭和 6 年竣工）

有安（横濱）の水準点と中津街道

有安（横濱）の水準点（明治 23 年設置）

2.求菩提道エリア

西高塚⇒築城⇒広末⇒赤幡⇒安武⇒寒田

江戸時代の安武手永大庄屋が所在し、在郷の町として発展した安武

安武の道沿いには、旧こくら屋（旧加来家）・片山家住宅（旧佐藤家）や旧下城井村役場正門玄関、旧白川酒造などの古い建物が残る。大庄屋屋敷跡には石垣や水路など当時の面影を残す景観が見られる。

大庄屋　安武宇左衛門（畑氏）屋敷跡の石垣

庄屋　松尾氏の屋敷跡石垣

旧白川造酒所と恵美須神社

片山医院の旧宅

旧下城井村役場と求菩提道（現県道）

旧下城井村役場

赤幡八幡神社と求菩提道（現県道）

求菩提道（現県道）と末次家住宅（赤幡）

3.香春道エリア

二口道標⇒上築城⇒上別府⇒弓ノ師

旧築城村役場が置かれ、村の中心地として発展した四辻

四辻周辺には宮崎酒店から旧中山醤油など古い建物や石垣、土塀などかつての町並みが見られる。築城小学校から上別府にかけては旧道が残るが、河川は暗渠となり、面影が薄れている。弓ノ師では、馬頭観音堂付近に当時の面影も見られるが、平行して新設された県道によって、人の往来はほとんどない。

⑴築城の町並み

宮崎酒店前の旧街道

長楽寺の石垣と赤煉瓦塀

長楽寺前の旧街道

四辻交差点付近
短冊状の町屋の地割がよくわかる。

右側の建物は、かつての郵便局

鏝絵で郵便局のマーク

⑵別府の町並みと弓ノ師

街道と用水路の景観が残る。

太田酒店（茅葺建物）と香春道（現町道）

大森家・奥畑家前の旧街道の景観（上別府）

旧垣内醤油屋と香春道（上別府）

旧垣内醤油屋の煙突

宝蓮寺前の旧街道の面影

別府から弓ノ師へ

弓ノ師に向かう香春道

かつての香春道と英彦山道の分岐箇所（弓ノ師）

馬頭観音堂（弓ノ師）

馬頭観音堂前を通る香春道（弓ノ師）

昭和 30 ～ 40 年代の防衛省による移転事業により、現在は石垣が残るのみとなった。かつての街道沿線の町並みがしのばれる。

4.英彦山道エリア
弓ノ師⇒船迫

弓ノ師から船迫にかけては農地整備や防衛道路建設により、英彦山道の往時の面影は薄れているが、船迫集落内の旧道や英彦山信仰と関わりのある高木神社周辺には当時の面影が見られる。

英彦山道と船迫集落

船迫集落中の英彦山道

願船寺と高木神社前を通る英彦山道（船迫）

慈現山　願船寺（船迫）

高木神社　正面鳥居（船迫）

高木神社　南側鳥居（船迫）

第Ⅳ章　保存活用計画

第１節　基本理念

築上町には鎮西御家人宇都宮氏 400 年の歴史を今に伝える城館や社寺のほか、国指定史跡「求菩提山」「船迫窯跡」、国指定名勝「旧藏内氏庭園」、県指定天然記念物「小原不動窟の大ソテツ」など貴重な文化遺産に加え、本町を東西方向に横断する古代官道沿線に多くの遺跡が分布する。

中世以降、椎田湊を介した海上交易が活発となり、江戸時代に中津街道と脇街道が整備されると、その宿場として椎田宿が栄え、海上・陸上交通の要衝地として、様々な人と文物が往来した。

中津街道の中でも、とりわけ椎田宿の大きな特徴は、海に面した地勢にある。城井川、岩丸川、真如寺川が集まる港湾都市の湊には江戸時代、築城郡の御蔵所が設置され、椎田宿の中心には郡屋が設置された。郡内の年貢米は湊から海路で小倉城下に運ばれ、また、廻船業者による瀬戸内海を介した関西方面との交易も盛んであった。

中津街道椎田宿は港を介して、海に開けた街道宿場町として発展してきたことにその独自性と魅力がある。宿場の街並みと賑わい、松並木が続く海辺に面した街道の景観は、勅使や藩主、武士や商人、文人や文学者、旅や交易で訪れた人、そしてそこで暮らしてきた人など、道を行き交う様々な人々の歴史を想い起させる。こうした人と道との関わり合いを「あるき、み、きく」（註１）　ことで「歴史の道中津街道」を学び、さらに保存活用に発展させることが大切である。

こうした景観と周囲に残る貴重な文化財を中津街道とともに保護し、活用するため、「価値と魅力の共有」「地域との連携」「未来への継承」の三つの基本理念をもとに、この計画を策定する。

1.価値と魅力の共有

絵図や古文書、古写真などの歴史資料や、現在も残る道標や社寺などの文化財としての価値を知り、また海岸に面した自然環境や街道の景観、そして古い町家の魅力とこれらの歴史・文化財を大切にしようとする想いを共有する。

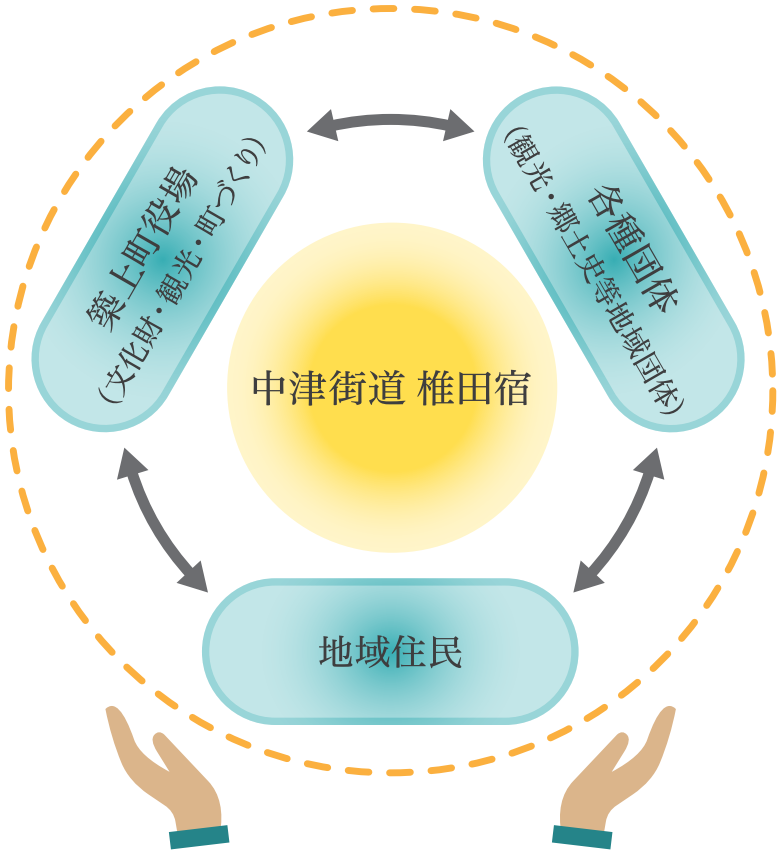
2.地域との連携

地域住民とイベントや祭りなどの観光振興や伝統行事に携わる人、また郷土史研究団体、建築士の団体、地域おこしグループ等との連携を図ることで、中津街道椎田宿の新たな価値を掘り起し、その成果を活用して地域研究や観光振興、地域活性化に繋げていく。

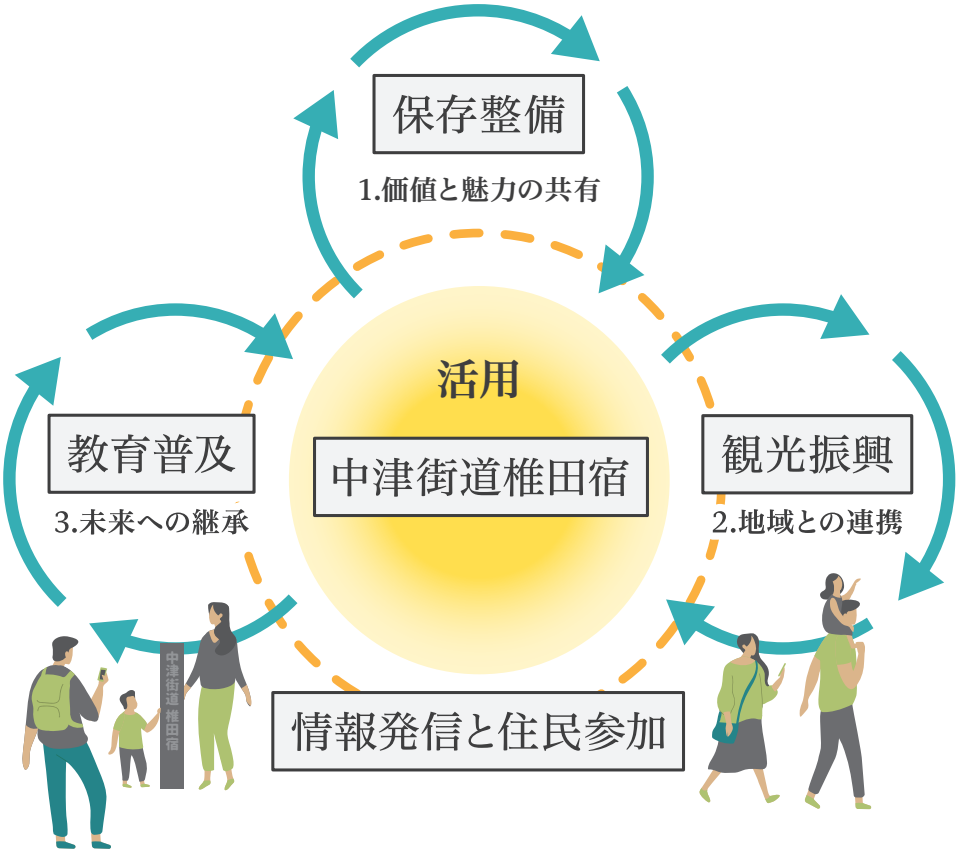
3.未来への継承

学校教育の一環として、中津街道椎田宿について現地を歩き、見て調べ、学ぶことにより、その価値や魅力を知り、郷土を愛する心を育み、次世代へ継承していく。

（註１）服部英雄（中世史研究者･元文化庁調査官）は、「歴史の道」の保存活用の重要性を説き、「あるき、み、きく」歴史学を提唱した。



中津街道保存活用に係る組織関係図



中津街道保存活用のイメージ図

第２節　短期・長期保存活用事業の計画と実施

築上町に残る旧街道は、現在も生活道路として使われ、椎田宿や湊、および脇街道の通る築城・安武の町並みには、かつての面影をわずかながら今に伝える。

ここでは、中津街道の周知・普及のための施策プランと、中津街道を生かした町づくりや地域振興へと発展させるため、短期および長期活用事業計画を策定する。

なお、中津街道は江戸時代初期に整備され、主に江戸時代を通して使用された街道であるが、その沿線にある椎田宿と湊は明治時代から昭和初期にかけても政治、経済、物流の拠点として栄えた時代背景があるため、時代設定は江戸時代からその後の時代にも目を向けたものにしたい。

第３節　短期保存活用事業計画

中津街道及び椎田宿の周知とその理解を深めるために、サイン事業計画と普及のためのソフト事業計画について、概ね５年以内に取りかかる事業を以下に提示する。

1.サイン事業計画

中津街道の周知の根幹となるサイン計画について、そのデザイン、サインの種類、設置場所、内容について、以下に提示する。

⑴名称とデザイン

①名称を「中津街道椎田宿」とする。

②中津街道のブランド化を図るため、フォント（字体）とロゴマーク、イメージが湧く色彩等を検討する。

③椎田宿の読み仮名は専門家の意見を参考にルビとアルファベット記述を行う。

④椎田宿のイメージとして、海、松並木などをイメージさせる。

多色の場合　　単色の場合　　モノクロの場合

中津街道椎田宿ロゴマーク

⑵ロゴマークとフォントのデザインコンセプトについて

中津街道椎田宿は基本理念で述べたとおり、海に開けた街道宿場町として発展してきたことに独自性と魅力があることから、「松並木が続く海辺に面した街道の景観」をイメージしたデザインを基調とした。松を右下に配し、その前面に広がる周防灘の遠浅の海を白いさざ波で表現した。また椎田といえばアサリの貝汁が昔からの名物であるため、遊び心を込めて松の葉とアサリの貝殻をかけ合わせて表現した。

フォントは「見やすい」「読みやすい」「読み間違えにくい」を選定指針として UD（ユニバーサルデザイン）フォントを採用した。

中津街道椎田宿ロゴマークとフォントの組合せ例

⑶ロゴマークの使用上のルールについて

中津街道椎田宿ロゴマークおよびフォントの組合わせは以下に基づき使用することとする。

①この保存活用計画書が示す中津街道椎田宿の普及啓発のために使用する。
②使用する場合は、この保存活用計画書が示すロゴマークを改変することなく原形のまま使用する。
③ロゴマークの使用料は無料。ただし権利は築上町が保有し管理を行う。
④法令または公序良俗に反するなど、築上町が不適当と認めた場合は使用を差し止める場合がある。
⑤ロゴマーク等の使用に関する問い合わせは下記まで。

築上町教育委員会生涯学習課文化財保護係
〒 829 － 0106 福岡県築上郡築上町船迫 1342 － 22　☎ 0930 － 52 － 3771

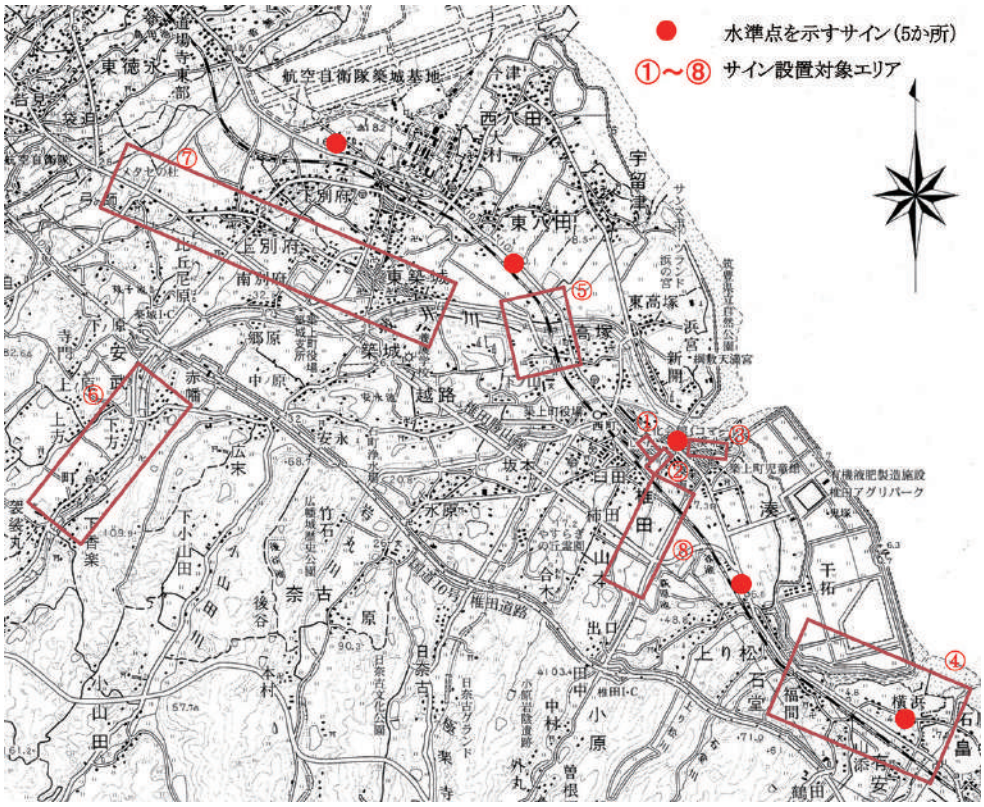
⑷サイン設置対象エリア（下図参照）

①天神通り
②真如寺川沿い椎田小学校付近
③湊地区中心部
④西角田・有安地区
⑤二口・西高塚地区
⑥求菩提道（安武・赤幡）
⑦香春道（上築城・上別府・弓ノ師）
⑧小原入口（小原道）

サイン事例（大分市）

⑸サインの種類と設置場所（次ページ図と対応）

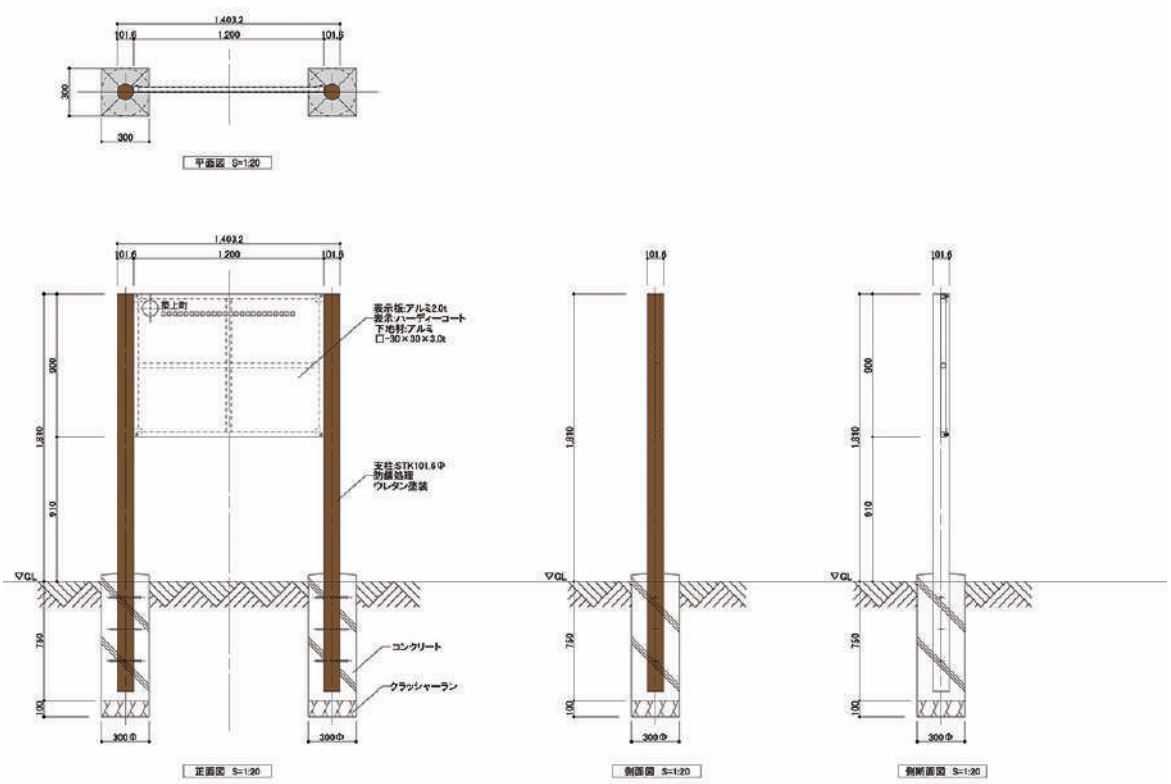
①総合案内サイン…中津街道の全体説明
　㋐椎田駅前と椎田小学校の通り
　㋑金富神社
② 説明サイン…サイン設置区域①～⑧ごとの説明サイン。
③ 水準点及びルートサイン（4 か所）
④ 地点表示サイン…街道名、地名、矢印
⑤ その他
・のぼり旗、灯篭の設置。
・顔出し看板など、観光客が写真を撮影するスポットの明示サイン。



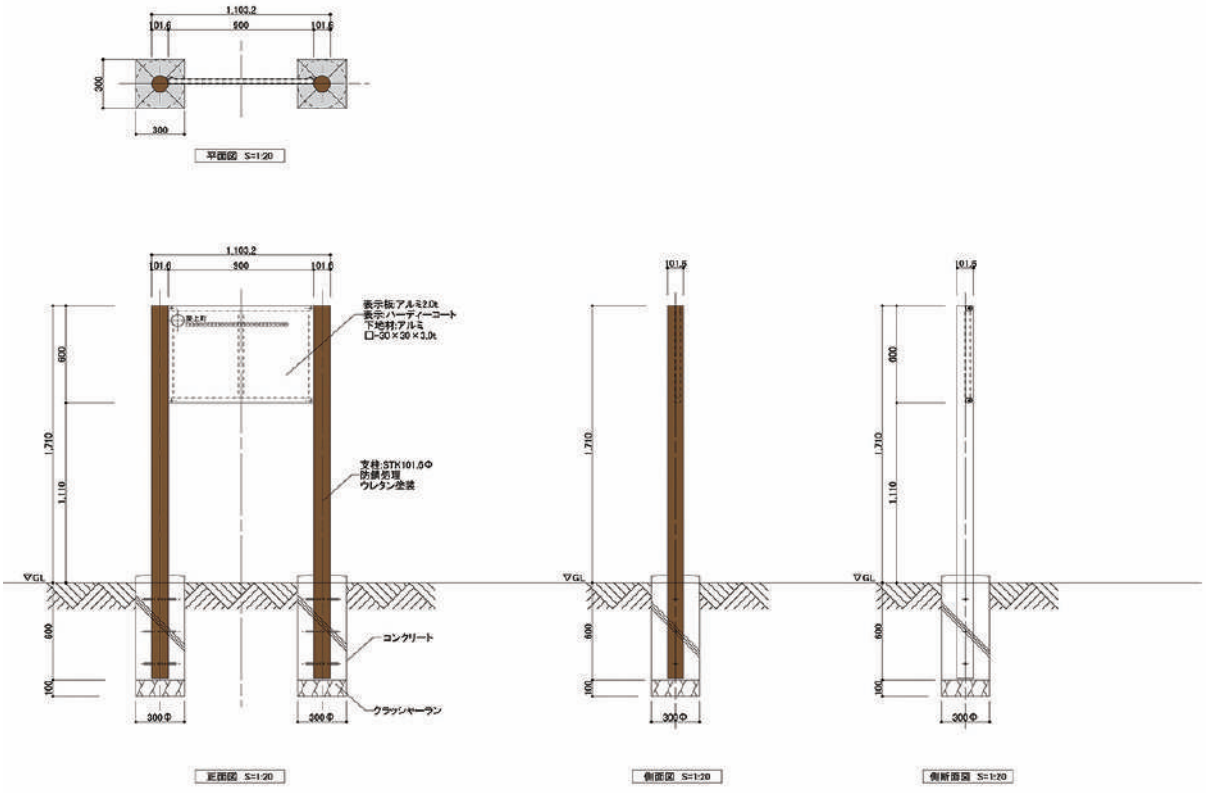
⑷で示すサイン設置対象エリア（9 頁の図で示す街道沿線にはルートサインを設置する）

⑹サイン基本設計

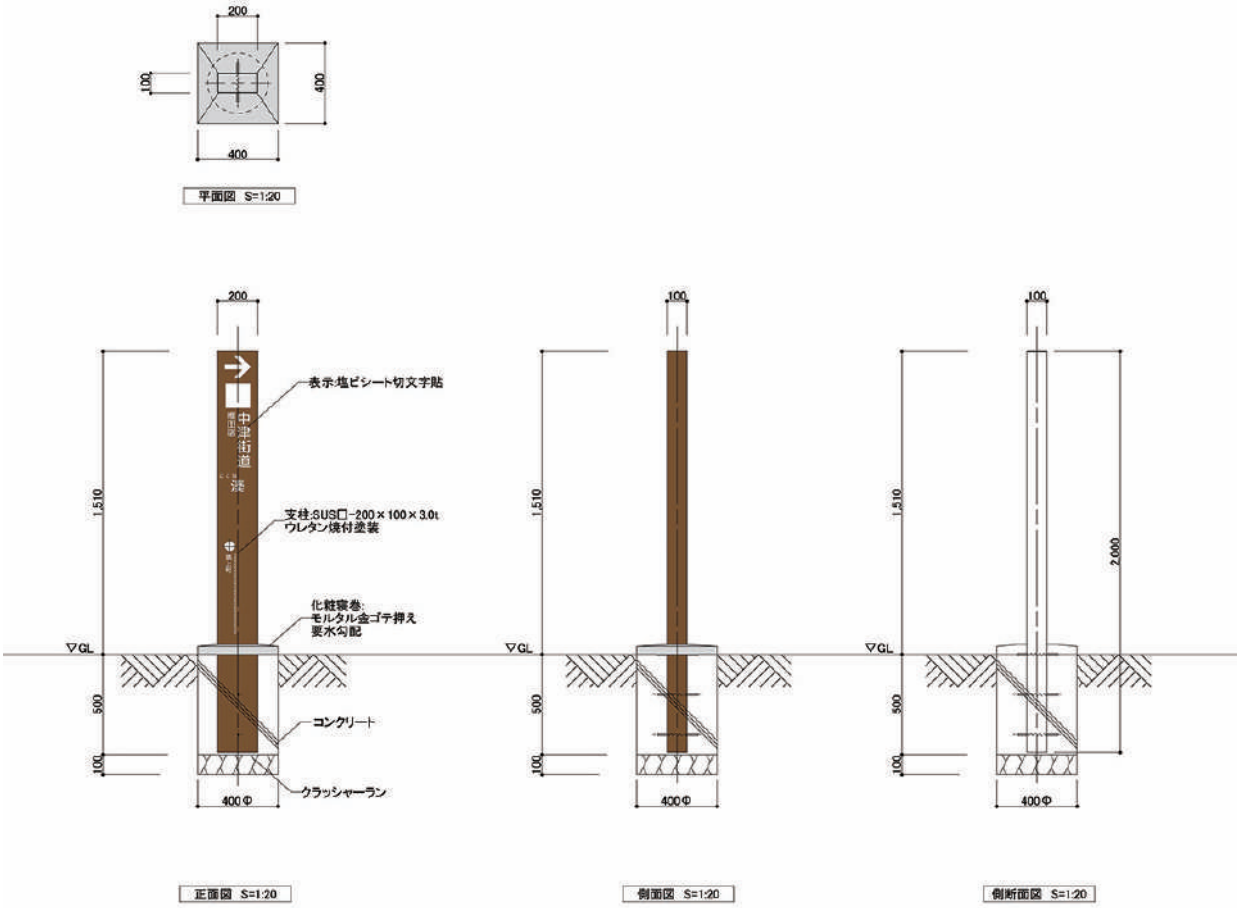
①総合案内サイン



② 説明サイン



③水準点およびルートサイン



④地点表示サイン

　地点表示サインは湊の町並み等、協力いただける人の家の壁などに設置することを想定している。
材質：アルミ覆工板製
36 ページのサイン事例写真参照

⑺サイン作成の留意点と詳細

①看板に QR コードを表示し、インターネットを介した情報提供（動画など）

②古写真や絵図を使った街道の往時の姿がわかる説明サイン。

③中津街道と椎田・湊地区の江戸時代当時の町並をイメージした復元図を作成。

④国道 10 号線と中津街道交差点にルート表示（道路表示、標柱式表示）

⑤各所にキャッチコピーをつくる。「朝日が昇る浜宮」「夕日が沈む岩丸谷」など。

⑥多言語対応。

2.啓発・普及のためのソフト事業

啓発・普及事業を行う際、事業を円滑に進める上で、各団体や組織との連携が大切である。ここでは中津街道を多くの人々に知ってもらうためのソフト事業について、連携先ごとにその具体的内容を提示する。

⑴学校教育との連携

①地域と学校が連携･協同し、子ども達に地域の歴史や魅力を伝え、自ら学び考えるよう導く。

㋐副読本の作成

- 中津街道と地域の歴史を知る一つの教材としてまとめる。
- 写真等を多用して簡潔でわかりやすく表現し、社会科・生活科・総合的な学習・道徳で教諭が活用しやすくする。※「昔の暮らし」「神楽等郷土芸能」「中津街道」をそれぞれまとめる。
- 授業カリキュラム内容に応じた活用例を示し、校長会や教科等研究会の協力を仰ぐ。
- 副読本の ICT 化を図り、コンテンツや映像など教諭が授業で活用しやすくする。

㋑こども中津街道ボランティアガイドの養成

- 児童生徒が自らの発表の場を持てるよう、発表会や観光客対応、イベント等の活動の場を設ける。
- ゲストティーチャーによるレクチャーを受ける。

②町内全校でカリキュラム化

㋐小学校３～５年生の間に中津街道を学ぶ授業の実施。

中津街道を歩いて学ぶ。

㋑教諭を対象とした学習会の開催。

椎田小学校　中津街道を歩いて学ぶ

⑵社会教育との連携

①町民大学の歴史講座で中津街道を学ぶ講座の実施。

②中津街道の歴史を知る学習会やシンポジウム、中津街道を歩く会の開催。

③一般向け学習冊子の作成。リーフレットの製作。

④一般町民を対象とした中津街道を体験するイベント開催。

⑶町内にある文化財との連携

①中津街道沿線の文化財を知る取組みの推進。

②中津街道から分岐する香春道、求菩提道、英彦山道沿線にある文化財を知る取組みの推進。

③築上町歴史民俗資料館を活用した取組みの推進。

④『築上町史跡ガイドブック』に中津街道の項目を設ける。

中津街道をテーマとした講演会

中津街道椎田宿リーフレット

⑷商工観光との連携

①街道の雰囲気づくりの演出

㋐当時の旅人体験（衣装の貸し出し）

㋑観光ガイドの組織化の推進と、観光ガイドによる中津街道見どころ案内

㋒街道沿いで「むかし遊び体験」の開催。

②ウェブプロモーションの推進

㋐ブロガー誘致と SNS による情報発信の推進。

㋑中津街道椎田宿 PR 動画の製作。委員が江戸時代の旅姿をし、中津街道椎田宿を PR する。

㋒築上町歴史散歩ホームページに中津街道ページの追加。

③観光コースの開発とウェブやリーフレットによる周知の徹底

㋐旧藏内邸、伝法寺庄、メタセの杜、浜宮、中津街道などを含めた築上町一日周遊コース。

㋑観光客にインパクトを与えるためのしかけ作り。（例　顔出し看板など）

㋒江戸時代中津街道での旅と椎田宿での食事体験ができるツアーの開催。

④中津街道グッズとお土産品開発

㋐中津街道　今昔絵はがき（中津街道の往時の様子がわかる写真）

㋑中津街道椎田宿パッケージの土産菓子

㋒中津街道椎田宿周辺を描いた日本手ぬぐいやタオル

㋓クリアファイルや定規などの文房具

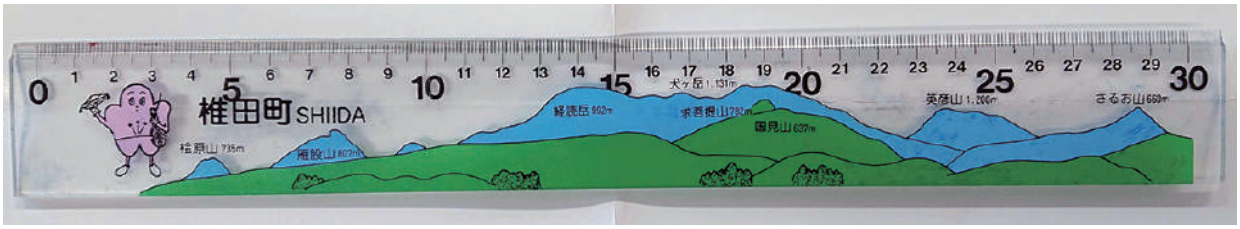
㋐中津街道椎田宿名物のアサリの貝汁
㋑田能村竹田の旗亭会飲図（本書 12 頁）をモデルに酒など

⑤しいだ梅祭りなど中津街道沿線で行われる祭りや神幸祭とのタイアップ。

⑥新庁舎に中津街道沿線の観光スポットがわかるコーナーを設ける。

⑦町のパンフレットなどには必ず、中津街道椎田宿を掲載するよう、関係部局に働きかける。

街道　手ぬぐい



（事例）定規「椎田町から見える山」など

椎田あさり

昔から椎田あさりは大粒で味が濃いといわれ、３～４月になると浜宮海岸は潮干狩りを楽しむ人々で賑わう。流通するアサリは他の地域では機械掘りが主流だが、椎田あさりはすべて手掘りで、丁寧に取り扱われる。

豊前銘菓　寒菊（高塚）

江戸時代からの伝統的な干餅菓子。口に含むと甘い生姜の風味が広がる。中津街道八屋宿の濱崎屋より暖簾を受け継ぎ、現在は築上町高塚で製造販売を続ける。

⑸地元との連携

①金富神社の神幸祭

㋐榊山神事（特殊神事）…2 月初卯の日

神籬（ひもろぎ）といわれる神霊を招き降ろした榊を担いで湊地区内を巡幸する。神籬は神輿の原形ともいわれ原始八幡神信仰の形態を留め貴重である。

㋑春の神幸祭…5 月

子ども神輿・大人神輿の後に山ん車と踊り車がお伴し、湊地区内を巡幸する。山ん車は神輿を守る意味合いがある。車上で芝居が催される。

榊山神事（特殊神事）

⑹民間団体との連携と情報の共有

①町内関連団体とのネットワークの確立

㋐築上町郷土誌会

㋑築上町商工会

㋒築上町観光協会

②町外関係団体との連携

㋐中津街道の沿線自治体（北九州市、苅田町、みやこ町、行橋市、築上町、豊前市、吉富町、上毛町、中津市）

㋑建築士会

㋒豊の国風景街道推進協議会

春の神幸祭　踊り車

春の神幸祭のようす

国道 10 号線を横断する山ん車

（写真提供）安部　晋司　氏

第４節　長期保存活用事業計画

概ね５年以上の準備期間を経て取りかかる事業を対象とし、主に中津街道沿線に残る古民家保護・活用に向けた取組みや拠点施設の整備などハード事業の実施について、以下に提示する。

1.中津街道全体の整備

中津街道全体の保護と沿線古民家の保護・活用に関して、役場内の関連部局で常に連携し、行う業務内容を以下に提示する。

⑴中津街道の整備や維持方法の検討。

①建設課、都市政策課との連携。

⑵中津街道沿線の古民家の保護と活用

①まちづくり振興課の空き家バンク事業

②税務課との調整（固定資産税の軽減措置など）

③古民家現状維持のための支援

④文化財指定による現状維持修理の際の財政的支援

⑶中津街道沿線の景観の保全と再生

①河川・橋の保存

②樹木の再生（クロマツの植栽）

⑷マンホールや側溝の蓋、街路灯などの統一。中津街道椎田宿の明示。

①建設課、上下水道課、総務課との連携。

石堂の松並木（昭和 52 年）

（豊前の街道をゆく会「中津街道」より）

2.拠点施設の整備

中津街道を築上町の歴史と観光拠点として活用する上で、拠点施設を整備する。

⑴延塚記念館（椎田郡屋跡地に建つ）の整備・活用

江戸時代の築城郡の役所である椎田郡屋の整備（中津街道観光の情報拠点）

⑵椎田郡屋の山門を復元（古写真を基に再現）

⑶椎田駅前から延塚記念館周辺にかけての駐車場整備

⑷中津街道椎田宿沿線の灯籠設置を支援（雰囲気づくり。街道を歩く楽しさ倍増。）

⑸鬼塚の整備（街道からの景観保全とルートサイン。街道沿いの鬼塚が望める場所に説明サイン設置など）

中津街道から見える現在の鬼塚

干拓前の鬼塚

第５節　旧街道や宿場の保存活用例

中津街道保存活用計画を策定するにあたり、全国の旧街道や宿場の保存活用例を紹介する。

⑴長崎街道

江戸時代初期に整備された九州主要街道（7 ページ参照）の一つで、小倉の常盤橋を起点に長崎市まで 57 里（223.8㎞）に及ぶ。途中に 25 か所の宿駅が置かれた。

令和元年に「砂糖文化を広めた長崎街道～シュガーロード」として日本遺産の認定を受け、街道沿線の町ではスイーツをテーマとした様々なイベントが開催されている。

①木屋瀬宿（北九州市八幡西区）

旧高崎家住宅周辺の町並み

北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館

②飯塚宿（飯塚市）

③内野宿（飯塚市）

内野宿の町並み

街道沿いの水路

長崎屋（拠点施設）

マンホール

説明看板

④山家宿（筑紫野市）

山家宿構口（福岡県指定史跡）

説明サイン

⑵唐津街道

朝鮮出兵時に豊臣秀吉等、関西の武将が通った道を江戸時代初期に整備したといわれ、九州主要街道（7 ページ参照）の一つで、小倉の常盤橋を起点に唐津市まで約 120㎞に及ぶ。若松・芦屋を経て赤間宿に至るが、明和年間（1764 ～ 72）以降は木屋瀬宿まで長崎街道を経由するルートが広く利用されるようになった。

赤間宿は明治時代に鉄道が整備されるまで物流拠点として栄えた町で、今も白壁、格子窓の古い家がそのまま店舗として利用され、街道が生活に密着した町並みとなっており、地元のガイドボランティアが観光客にその見どころを伝えている。

①赤間宿（宗像市）

②原町宿（宗像市）

原町宿の町並み

原町宿の総合案内サイン

⑶中津街道における近隣市町の事例

八屋の町並み（豊前市）

山国川の渡し（吉富町）

求菩提道と中津街道の分岐点　道標（豊前市）

山国川の船渡場（大分県中津市）

小倉口サイン（大分県中津市）

⑷中山道の妻籠宿と奈良井宿

妻籠宿の町並み

奈良井宿　高札場の説明サイン

⑸東海道の関宿

関宿の町並み

ルート表示サイン

【引用参考文献】

1. アクロス福岡文化誌編纂委員会編 2007『アクロス福岡文化誌 1 街道と宿場町』海鳥社
2. 長崎街道小倉城下町の会編 2006『城下町小倉の歴史』
3. 古賀武夫編 1976『中・近世の豊前紀行記』美夜古郷土史学校
4. 谷川健一編 1972『日本庶民生活史料集成　第二十巻　探検・紀行・地誌（補遺）』三一書房
5. 豊前の街道をゆく会編 2000『小倉と中津を結ぶ豊前の道　中津街道』
6. 門田和子 2007「昔の安武町について」『郷土誌ついき 37 号』
7. 神本　弘 1993「宇佐宮奉幣使御下向と宿駅椎田」『郷土誌しいだ創刊号』
8. 神本　弘 1996「綱敷天神社近世史抄録」『郷土誌しいだ第 4 号』
9. 池永　敬 2001「中津街道と椎田宿場町」『郷土誌しいだ第 9 号』
10. 古賀正助 2003・2004「豊前の街道を案内して」『郷土誌しいだ第 11 号・12 号』
11. 椎田古文書の会 2008「御用方日記」『郷土誌しいだ第 16 号』
12. 築城町 2006『築城町誌』
13. 椎田町 2005『椎田町史』
14. 行橋市 2006『行橋市史』
15. 清水吉康編 1983『福岡県名所図録図絵（復刻版）』大蔵出版会
16. 城戸淳一 2020『京築の文学群像』花乱社
17. 城戸淳一 2020『村上仏山と水哉園』花乱社
18. 山内公二 2017『新京築風土記』幸文堂出版

第Ⅴ章　資料編

第１節　温故知新・中津街道保存整備に関する決議

温故知新・中津街道保存整備に関する決議

小倉（北九州市）は江戸時代から九州の喉元といわれ、交通要衝の地であり「門司往還」「中津街道」「秋月街道」「長崎街道」「唐津街道」と五つの街道が放射線状に出ていました。

中津街道は豊前の国を南北に貫き、小倉城下の常盤橋を起点に中津口、宇佐町を経て足立山のふもとを抜け、湯川、曽根、苅田、行橋、築城、椎田、松江、八屋、宇島、吉富から中津城下に至る13里（52キロ）の道であり、宇佐神宮までは勅使街道とも呼ばれます。

江戸時代には中津往来とも呼ばれ明治期に国道となり、昭和８年の大改修で国道３号となり戦後国道10号と改称。平成に入ると有料の椎田バイパスが開通。現在では東九州自動車道が開通し京築地域の道路交通事情が大きく変わって参りました。

そこで、築上町の原点に戻ってみますと、私たちの郷土には先人の遺したまだあまり知られていない素晴らしい歴史文化遺産が沢山眠っています。

他の地域の街道では街道名を入れた物産や様々なイベント等が執り行われていますが、中津街道は名前さえも余り知られていないのが現状です。築上町を通る中津街道は当時の町並みはほとんど残っていませんが、街道のルートは非常によく残っています。この街道には今も江戸から昭和初期にかけての標柱や道標、水準点が残り、また街道沿いに何があったということを現地に表示して形に残すことで、築上町の魅力を掘り起し子供から大人までが古い歴史の道を再認識し、町外から隠れた観光スポットになることと考えます。同時に中津街道と一部並行して延び、今もその面影を残す、築城、別府、弓の師から石坂峠、油須原を経由する「秋月道」も同時に保存整備も行うことが不可欠であります。

中津街道は国道10号線と日豊本線を交差しながら曲がりくねって走っています。この街道は沿線自治体の中で築上町が魅力ある景観が一番整っている街道であります。

よって築上町議会として、中津街道保存整備に向けた取り組みを築上町が最初に推進することをここに表明する。

以上決議する。

平成27年3月19日

福岡県築上町議会

第２節　中津街道保存活用検討委員会設置規定

中津街道保存活用検討委員会設置規程

平成 30 年 1 月 29 日訓令第２号

（目的）

第１条　歴史の道「中津街道」を広く周知し、また将来にわたって保存活用する上で、必要な事項の協議、計画を策定することを目的として、中津街道保存活用検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第２条　委員会は、次に掲げる事項の検討を行うものとする。

⑴中津街道の保存活用及び整備に関すること。

⑵中津街道の周知普及に関すること。

⑶中津街道に関わる他自治体、民間団体との連携に関すること。

⑷その他中津街道保存活用の推進に関し、必要と認められること。

（組織）

第３条　委員会は、委員 10 人以内をもって組織する。

（委員）

第４条　委員は、次の各号に掲げる者のうちから町長が委嘱する。

⑴築上町議会議員

⑵学識経験者

⑶その他町長が必要と認める者

（任期）

第５条　委員の任期は、２年とする。ただし、再任を妨げない。

（委員長及び副委員長）

第６条　委員会に委員長及び副委員長各１名を置く。

２　委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める。

３　委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

４　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

（会議）

第５条　委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

２　委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない。

３　委員長は、議事その他に関して必要があるときは、委員でない者の出席又は資料等提出の協力要請を行い、会議の円滑な運営と議事の充実を図るものとする。

（報酬）

第６条　委員の報酬は築上町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例（平成 18 年条例第 34 号）第２条の規定に基づき支給する。

（庶務）

第７条　委員会の事務局は、築上町教育委員会生涯学習課が総括し、必要に応じて築上町役場関係各課をもって充てる。

（補則）

第８条　この告示に定めるもののほか、必要な事項は、委員会が定める。

附　則

この告示は、平成 30 年 1 月 29 日から施行する。

第３節　　歴史資料

1.古写真

⑴中津街道　椎田宿

椎田町の大洪水　　大正 12 年（1923）6 月 20 日　嘯月庵雲儛　作

太田菓子商店　昭和 15 年（1940）
現在の「鹿の子」。当時は新町橋付近にあった。

町村合併記念仮装行列　昭和 31 年（1956）

椎田駅前　昭和 17 年頃（1942）
出征兵士の壮行会か。詳細は不明。

椎田駅前　昭和 17 年頃（1942）
戦時中の消火訓練。左側に椎田合同銀行倉庫。その手前は菓子屋。アイスケーキの文字。

旧椎田町役場（現延塚記念館）前
昭和 17 年頃（1942）

旧延塚奉行役宅山門（西福寺）
昭和 50 年頃（1975）、取り壊し

旧延塚記念館
椎田郡屋跡地に明治 31 年椎田町発足に伴い役場庁舎として建設。昭和 38 年に役場が新庁舎移転後は昭和 56 年まで、延塚奉行を顕彰する公民館として使用。（現在は鉄筋コンクリート造建物）

旧延塚記念館前　産業祭仮装行列
昭和 50 年（1975）

椎田町合併記念　昭和 30 年（1955）
椎田町、八津田村、葛城村、西角田村が合併し、新しい椎田町が発足。

椎田西町（神幸祭の準備）

合併記念の祝賀ムードあふれる椎田の町並み

小園川にかかる中津街道椎田宿の新町橋
昭和 33 年頃（1958）

椎田駅前

「きねや食堂」の看板が見える。

「なかつや」と中津街道　昭和 33 年頃（1958）
「中津屋」は江戸時代創業。宇佐神宮奉幣使史料に「中津屋源吉」の記載がある。

「小畑洋服店」の看板が見える。

延塚記念館北側の寿映画館前
昭和 33 年頃（1958）

各町内の山車が西ノ橋横の広場に集まる。

椎田駅前　大正 10 年（1921）
店舗前にマツがある。

各町内の山車が西ノ橋横の広場に集まる。
昭和 32 年頃（1957）

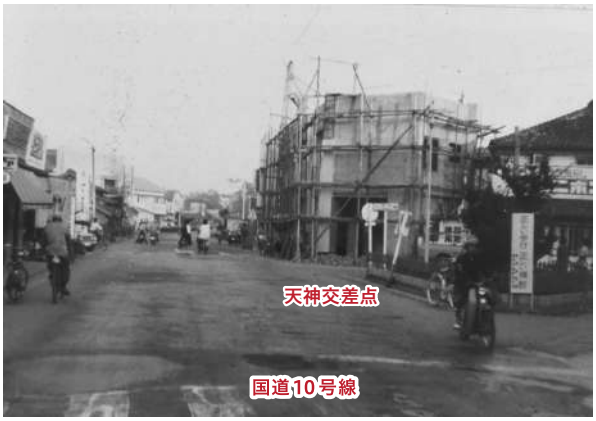
椎田橋と福岡銀行椎田支店（日田屋跡地）
（豊前の街道をゆく会「中津街道」より）
昭和 52 年（1977）撮影

天神交差点付近

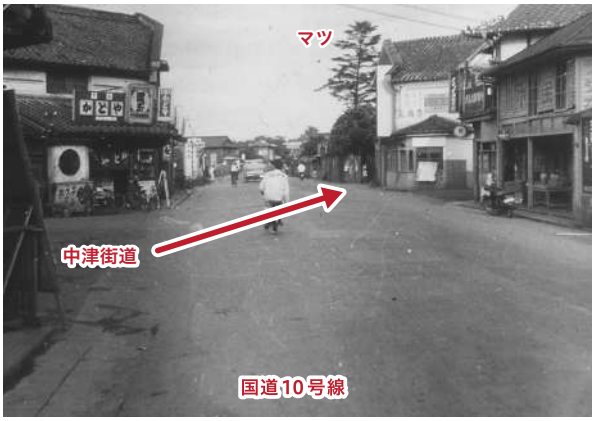
⑵中津街道から国道 10 号線へ

かどや食堂（旧尾崎屋）と国道 10 号線
自転車が横切る道が中津街道。
右上に「濱宮海岸入口」

永家書店　昭和 27 年（1952）



建設途中の築上信用金庫　昭和 33 年（1958）頃



築上信用金庫建設前の天神交差点
中津街道との交差点に松の木が見える。

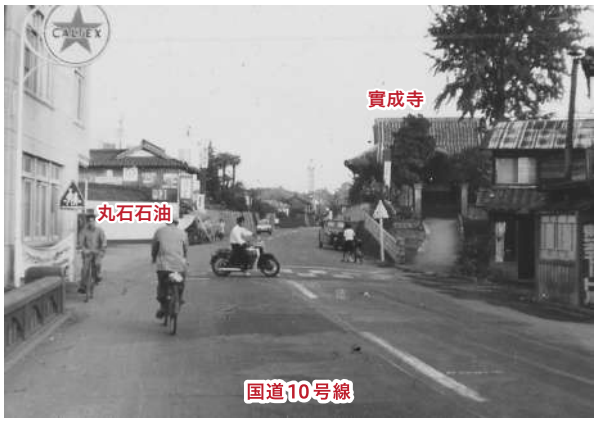
宮部病院前を走る九州一周駅伝のランナー

九州一周駅伝は毎年 11 月上旬に開催。10 日間に渡り九州各県を巡る駅伝で、9 日目に椎田を通過した。2013 年に閉幕。

椎田駅前の国道 10 号線

⑶湊の町並み

大分国体の国体旗が湊を通過
昭和 41 年（1966）



湊の丸石石油付近（現　奈良漬さろん安部）
昭和 33 年（1958）

湊を通る国道 10 号線（左手に火の見櫓）
昭和 33 年（1958）

昭和初期の湊（造酒屋の建物や煙突が見える。）

金鈴食堂　昭和 32 年頃（1957）
写真の裏書に安部商店付近とある。

金富神社にて大日本国防婦人会
昭和 13 年（1938）
日中戦争開戦 1 周年を記念した戦勝祈願集会の集合写真

湊の山車（大正時代）

湊の火の見櫓

湊の神幸祭「踊り車」　昭和 37 年（1962）

戦時中の椎田小運動場（かつての湊郡屋）

蛭崎酒店（魚徳）と湊の町並み（昭和）
「中津街道」（豊前の街道をゆく会）より

椎田魚市場

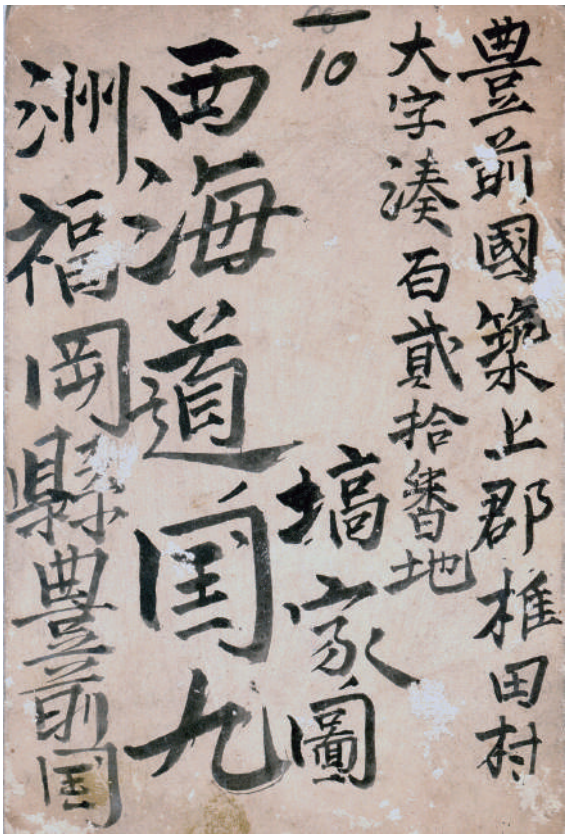
⑷塙家（湊）の写真から

元治元年（1864）、朝廷から宇佐神宮に派遣された勅使は、中津街道を通り椎田宿に宿泊した。その宿割り記録に塩屋（塙）伝五郎の名前が見える。塙氏は江戸幕府の御連歌師、里村氏に入門し連歌を学ぶ等、湊の名士として学問・文化に造詣が深かった。漢詩人、村上仏山とも交流があり、弘化元年（1844）には仏山が塙氏宅で酒食接待を受けたことが「仏山堂日記」に記される。幕末から明治時代の当主、塙彦六は造酒屋を営み、文久新地（行橋市）の干拓に貢献した守田蓑洲とは姻戚関係にあった。大正時代には彦六の娘婿がここで石川病院を開院している。

塙家から寄贈を受けた写真の中から、湊に関係あるものを掲載する。

明治 29 ～ 31 年頃の塙家

右写真は左写真の裏書。築上郡は明治 29 年に誕生。椎田村は明治 31 年に椎田町になる。幕末の密造酒取締り嘆願書に酒造業者として塩屋（塙）彦六の名が見え、明治 12 年の築城郡湊村戸別図（13 ページ参照）にもその名が見えることから、ここで造酒屋を営んでいたと考えられる。



大正～昭和初期の塙家「石川病院」

火災鎮火後

明治 10 年(1877)12 月 29 日､椎田と湊地区で大規模な火災があったといわれる｡その際の写真か｡

金富神社の踊り車（明治～大正時代）

⑸浜宮　綱敷天満宮

綱敷天満宮前の砂浜　昭和 17 年（1942）

昭和 17 年 4 月に東京が初空襲を受け、全国で空襲に備えた防空演習が実施された。参加者は全員女性で、砂浜に櫓を組み、バケツを持つ人の姿もある。

堤防建設前の綱敷天満宮前の砂浜

現在は駐車場と道路になっている。

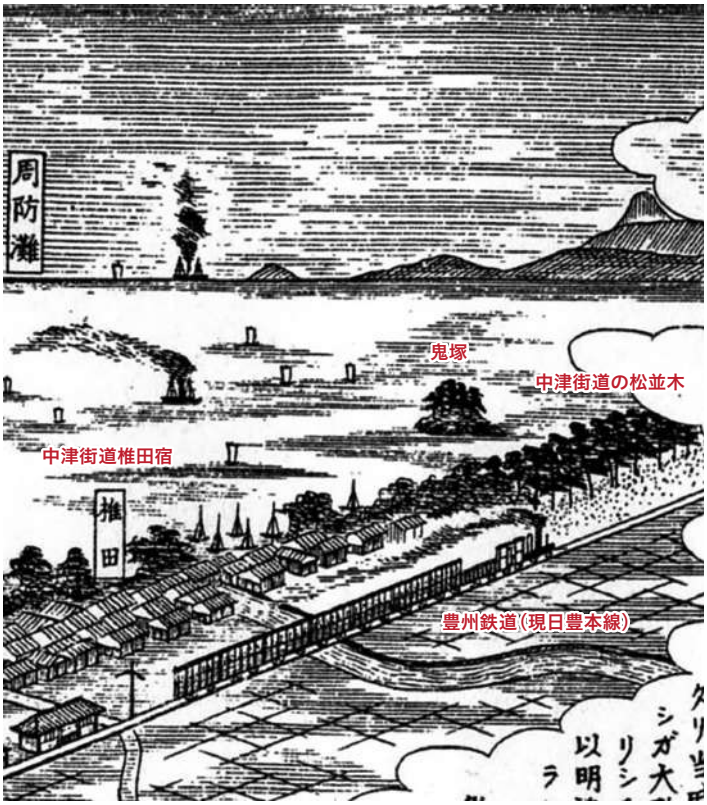
⑹鬼塚

求菩提山を開山したと伝えられる伝説上の人物、猛覚魔卜仙が犬ヶ岳に棲む鬼を退治し、その頭を埋めたことから「鬼ヶ洲」のちに「鬼塚」と呼ばれるようになった。

『求菩提山縁起』によると、その後、養老４年（720)、行善和尚が鬼塚で白山大権現のお告げを受けて、求菩提山護国寺を建立したといわれる。

昭和の干拓で陸地になったが、かつては満潮時に浮島となり、干潮時には砂州が現れ陸続きとなる小島で、『大日本名所図録』にも紹介される風光明媚な景勝地だった。

中津街道を行き交う旅人もこの風景を目に焼き付けたことだろう。



『大日本名所図録』（明治 31 年）に描かれた鬼塚

干拓以前の鬼塚

上り松公園から見た鬼塚

干拓前の全景　昭和 38 年（1963）

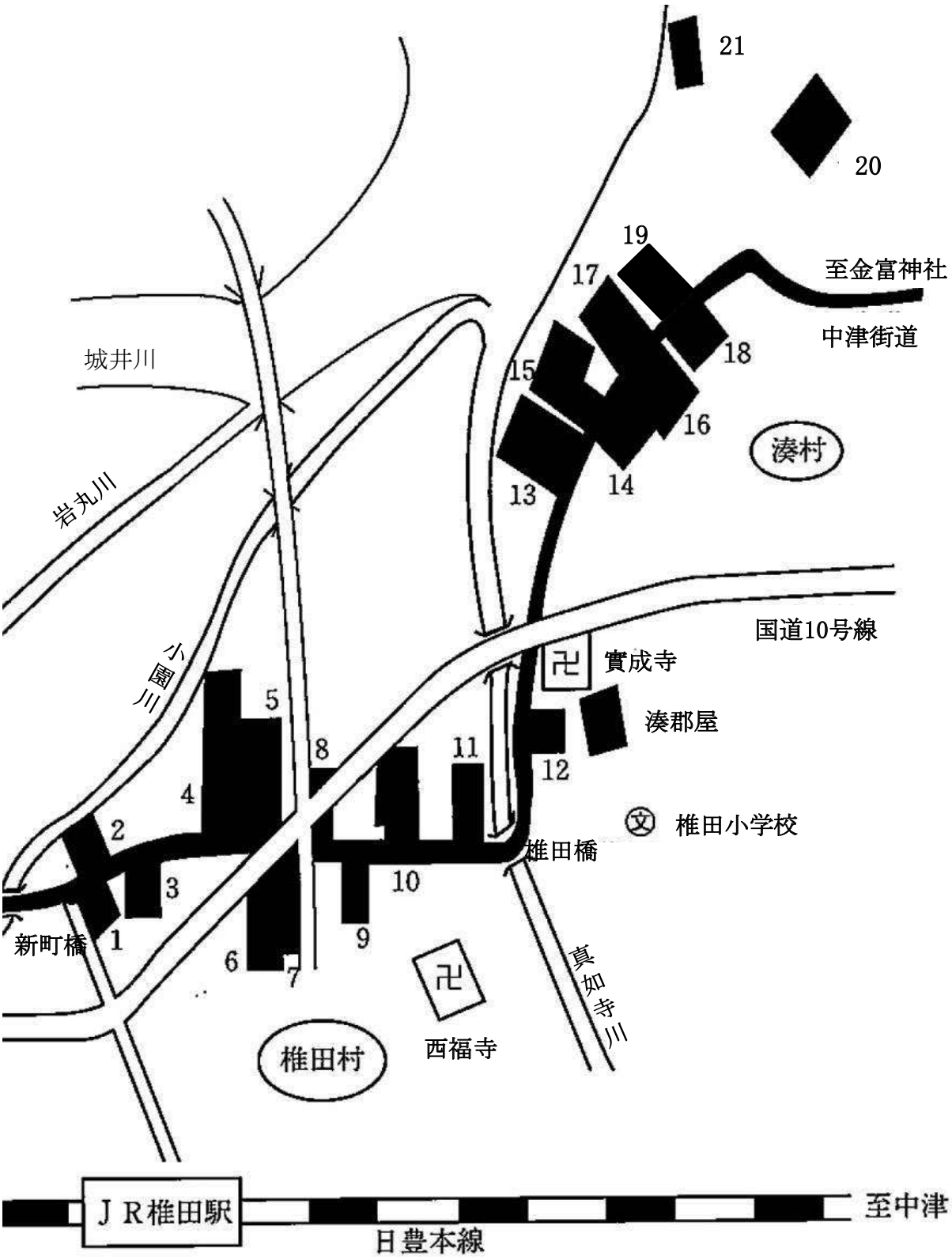
⑺福間海岸から石堂・有安

中津街道　石堂の松並木　昭和 53 年頃（1978）
（写真提供：奥畑征治氏）

干拓前の福間の海岸線と中津街道（建物よりも海側が中津街道）
昭和 30 年頃（1955）・上り松公園から海側を撮影

2.中津街道椎田宿と湊の町並み

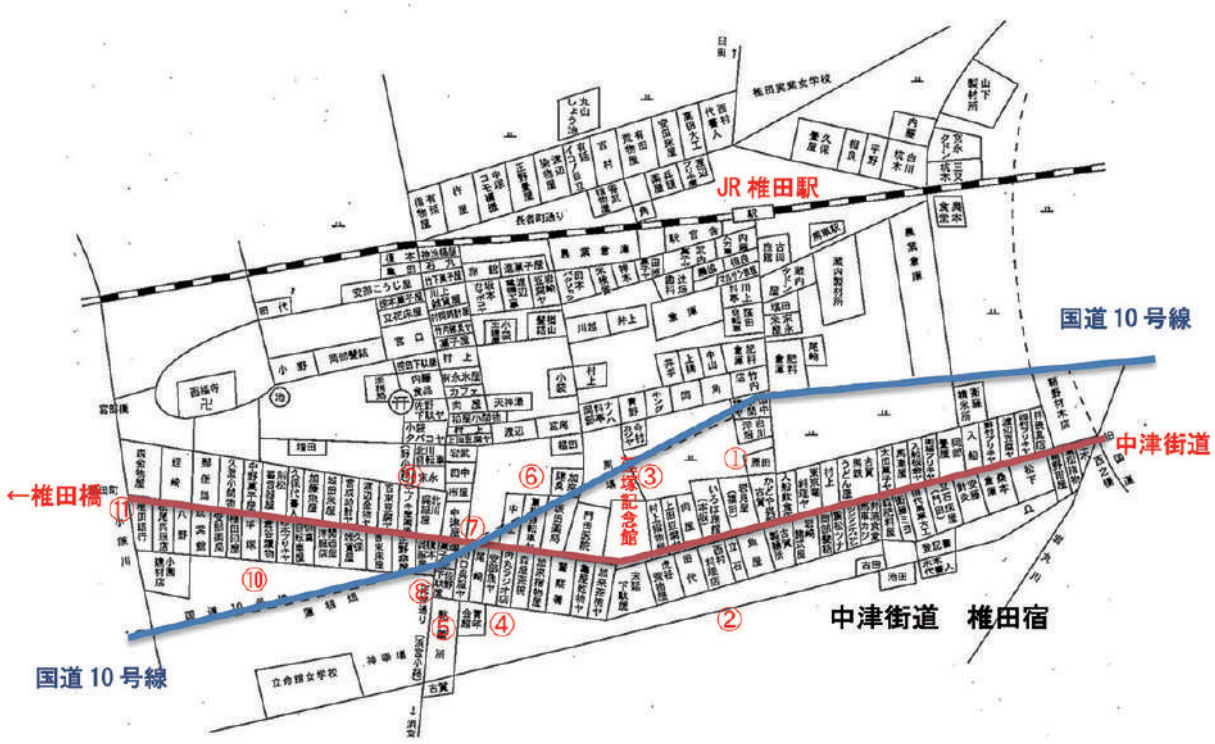
⑴江戸時代の中津街道椎田宿と湊の町並み



池永敬「椎田村・湊村の往時の町並み」『中津街道』より

※上図中の番号は次頁以降の①～㉑に対応する。

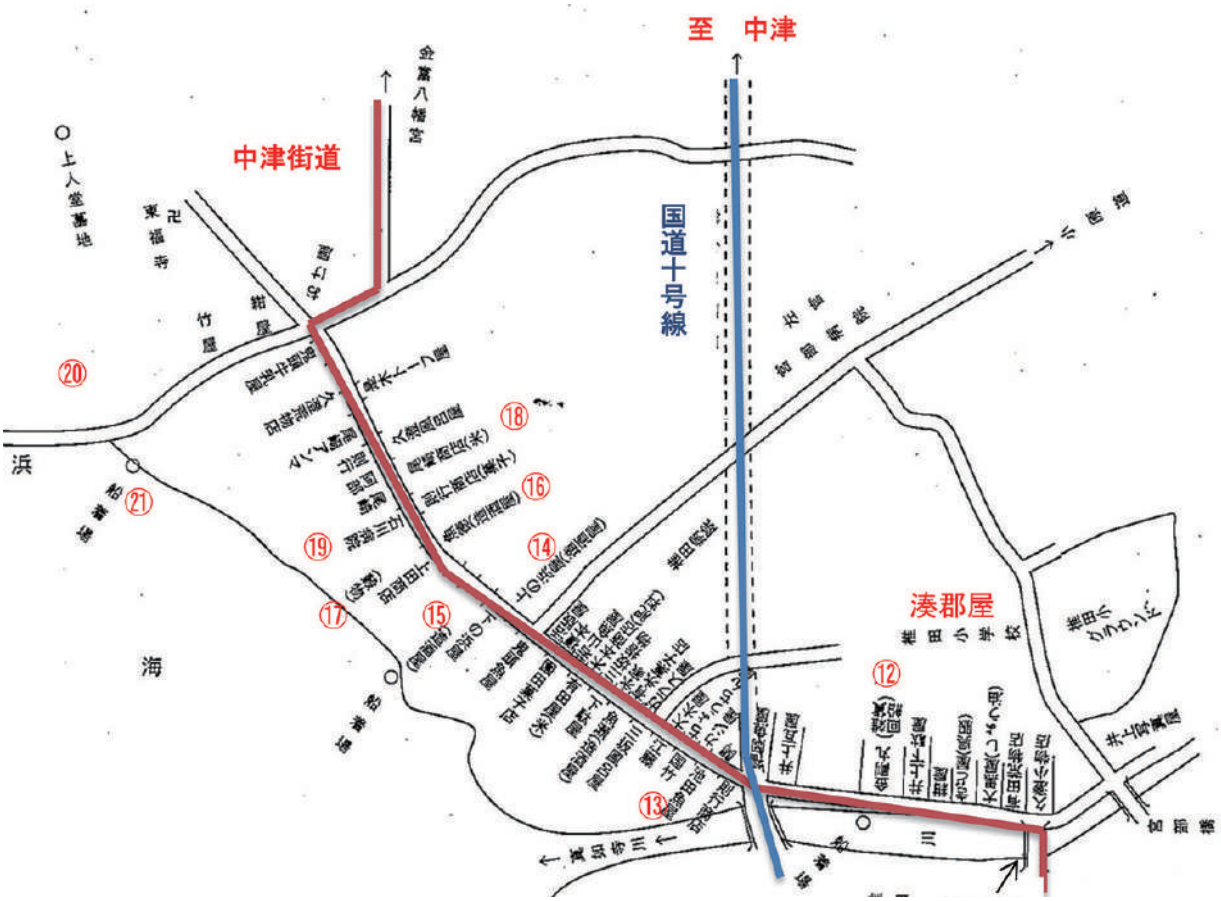
⑵椎田宿の町並み



大正末期～昭和初期の椎田・湊の町並み『椎田町史（民俗編）』より

①宿屋「岩見屋」……薬売りの行商人もよく宿泊していた。
②物産商「永徳屋」……食料品その他の製造販売。
③築城郡屋（椎田郡屋）……築城郡筋奉行所
④物産商「岩田屋」……天保 14 年（1843）藩札に代わる紙幣「岩田屋札」を発行。
⑤物産商「尾崎屋」……岩田屋に並ぶ豪商。
⑥御茶屋「四日市屋」……中津街道を通行する大名や藩役人が休憩・宿泊する施設。
⑦食料品店「中津屋」……元治元年の「奉幣使御下向ニ付御宿割帳」に「中津屋源吉」と記載
⑧薬種問屋「榎屋」……中津街道と天神通りの交差点。現国道 10 号線は榎屋の敷地内だった。
⑨呉服商「榎屋」……薬種問屋榎屋と同族経営。
⑩宿屋「城岩屋」……大型旅館。江戸時代から昭和初期まで営業。
⑪物産商「日田屋」……江戸時代末期に酒造業へ。日田屋重三郎の名がしばしば見られる。

⑶湊の町並み



大正末期～昭和初期の椎田・湊の町並み『椎田町史（民俗編）』より

⑫廻船問屋「藤田屋」……大型木造船「金剛丸」を所有。穀類・薪炭を関西へ運び、塩・砂糖・豆類等を仕入れてきた。

⑬醤油醸造・廻船業「長寿屋」……木造帆船「長寿丸」を所有。醤油樽を中国四国地方へ。諸雑貨の仕入。

⑭酒造業「上ン浜屋」……現在も建物に馬の手綱を繋ぐ金具が残る。

⑮酒造業「下ン浜屋」……木造帆船「長栄丸」を所有。明治期以降は「柳井酒店」

⑯酒造業「魚徳」……酒造業のほか、塩・きざみタバコの販売も行った。

⑰酒造業「蛭崎屋」……屋号は「魚清」。蛭崎壮太郎は明治 19 年、今井須佐神社を案内した道標を設置。明治 25 年の有安道標も同氏が建立か。

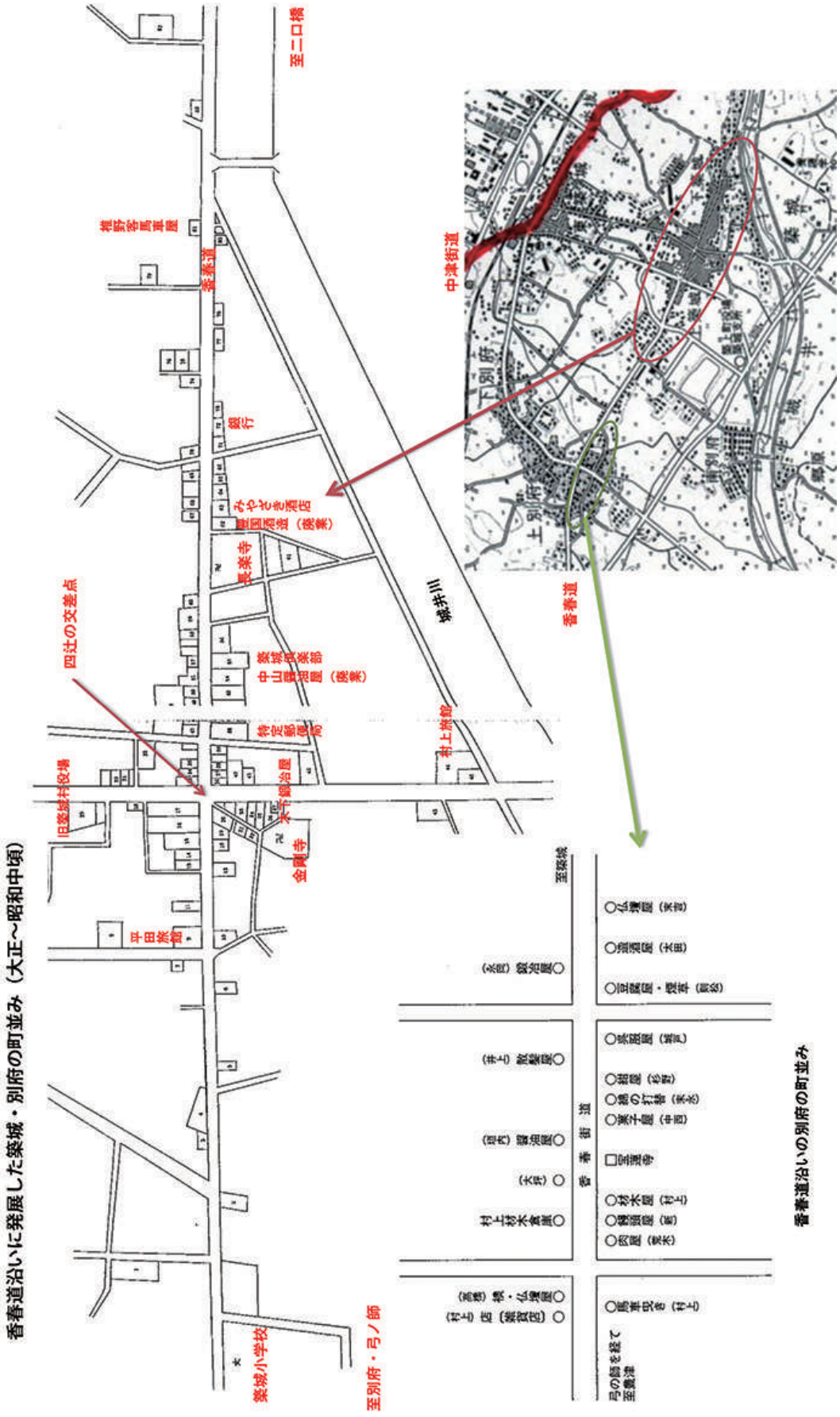
⑱鮮魚店「尾崎屋」……江戸時代は魚屋。小倉小笠原藩では魚屋は宿場町でしか開業できなかった。玄関柱には今も荷馬車の馬の手綱を繋ぐ金具が残る。

⑲塩屋「塙家」……湊の名士。幕府の御連歌師　里村氏に師事し連歌を嗜む。幕末に塙辰吉は水哉園（行橋市稗田）で学ぶ。伝五郎は築城郡郡長。その子　彦六は椎田村村長を歴任。行橋市沓尾の守田家と姻戚関係。

⑳築城郡御蔵所……築城郡内の年貢米は一旦ここに集められ、船で小倉城下等へ回送された。

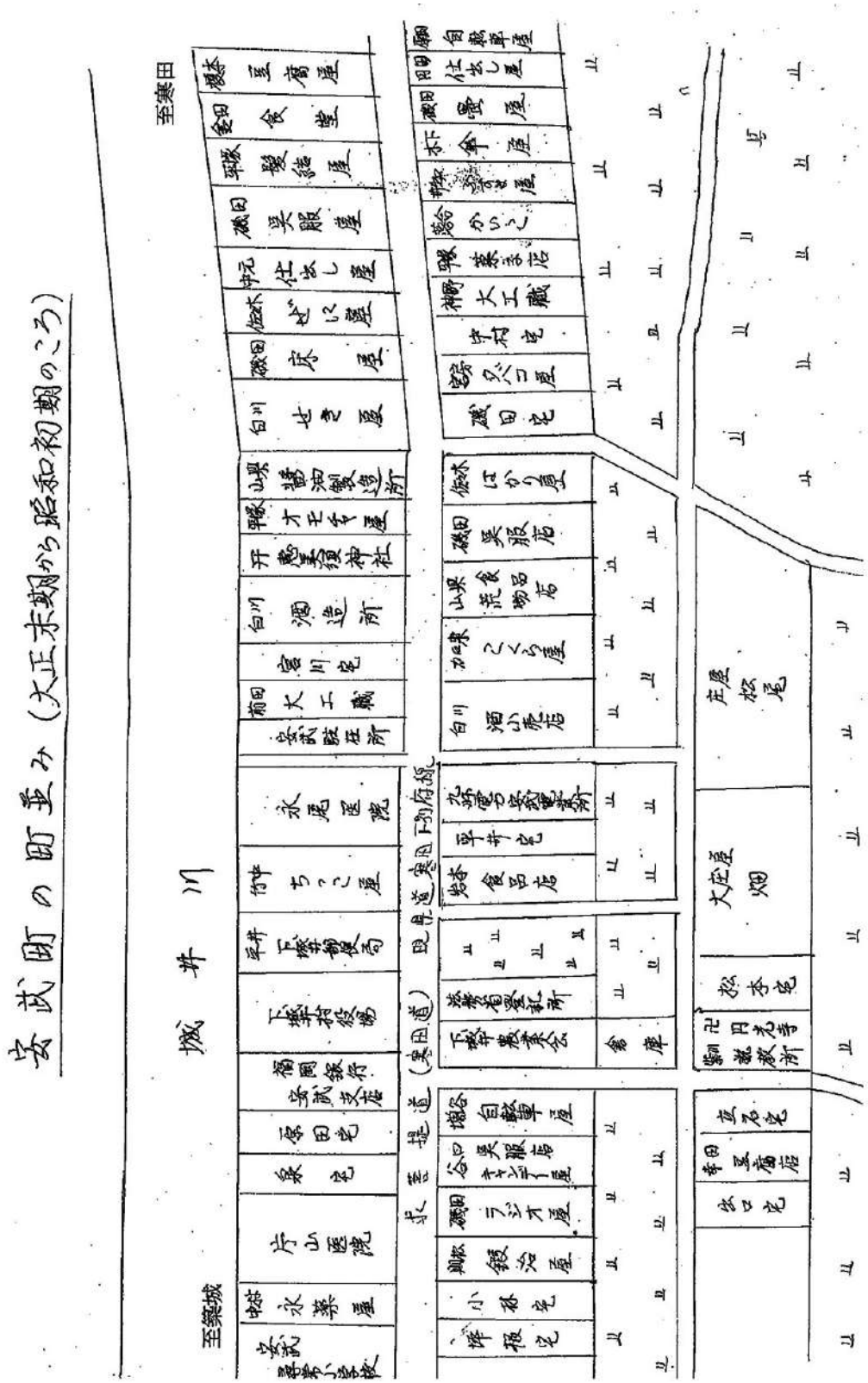
㉑船着場……築城郡唯一の本格的港湾。長い岸壁に大型帆船から漁船まで着岸。

3.香春道沿いに発展した築城と別府の町並み



4.求菩提道沿いに発展した安武の町並み

門田和子 2007 年「昔の安武町について」『郷土誌ついき 37 号』より



5.中津街道関連史料　抄録

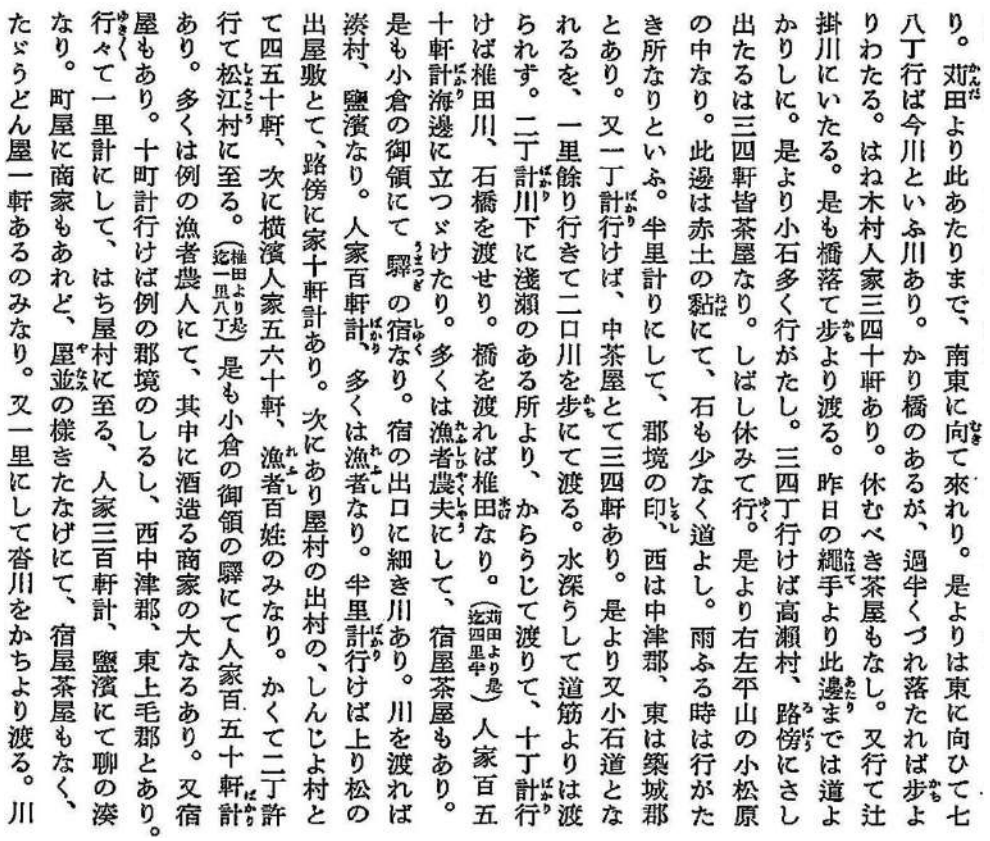
ここでは、江戸時代の中津街道椎田宿の様子を知ることができる史料を抜粋し、抄録として紹介する。なお、原文は「中・近世の豊前紀行記」（古賀武夫編・美夜古郷土史学校 1976 年刊）を底本とした。

⑴菱屋平七『筑紫紀行』

尾張（名古屋）の呉服問屋の隠居。40 歳で家業を譲り、隠居後、享和２年（1802）３月に名古屋を発ち、京都・大坂を経て瀬戸内海を西航。室積（山口県光市）から陸行して九州入りした。小倉からは、中津街道を宇佐まで南下後、耶馬渓、英彦山、小石原を経て佐賀・長崎まで下り、帰路は佐賀、福岡を経て山陽道に入り、姫路から山陰に出て、同年７月に帰り着いた。４か月間の旅日記。

旅行ブームの頃の日記で、後に旅行する人の便に資するために書かれたため、旅宿・茶屋・道路事情が詳しい。また、原本には浮世絵風の風景画（本人筆）があり興味深い。

- 享和２年（1802）４月 21 日　苅田宿（林田五郎左衛門　宅）朝８時出発
- 「大橋」「椎田」「松江」「八屋」を経てその日は中津城下「萬屋小左衛門　宅泊」



り。苅田より此あたりまで、南東に向て來れり。是よりは東に向ひて七八丁行ば今川といふ川あり。かり橋のあるが、過半くづれ落たれば歩よりわたる。はね木村人家三四十軒あり。休むべき茶屋もなし。又行て辻掛川にいたる。是も橋落て歩より渡る。昨日の繩手より此邊までは道よかりしに。是より小石多く行がたし。三四丁行けば高瀬村、路傍にさし出たるは三四軒皆茶屋なり。しばし休みて行。是より右左平山の小松原の中なり。此邊は赤土の黏にて、石も少なく道よし。雨ふる時は行がたき所なりといふ。半里計りにして、郡境の印、西は中津郡、東は築城郡とあり。又一丁計行けば、中茶屋とて三四軒あり。是より又小石道となれるを、一里餘り行きて二口川を歩にて渡る。水深うして道筋よりは渡られず。二丁計川下に淺瀬のある所より、からうじて渡りて、十丁計行けば椎田川、石橋を渡せり。橋を渡れば椎田なり。（苅田より是迄四里半）人家百五十軒計海邊に立つゞけたり。多くは漁者農夫にして、宿屋茶屋もあり。是も小倉の御領にて　驛の宿なり。宿の出口に細き川あり。川を渡れば湊村、鹽濱なり。人家百軒計、多くは漁者なり。半里計行けば上り松の出屋敷とて、路傍に家十軒計あり。次にあり屋村の出村の、しんじよ村とて四五十軒、次に横濱人家五六十軒、漁者百姓のみなり。かくて二丁許行て松江村に至る。（椎田より是迄一里八丁）是も小倉の御領の驛にて人家百五十軒計あり。多くは例の漁者農人にて、其中に酒造る商家の大なるあり。又宿屋もあり。十町計行けば例の郡境のしるし、西中津郡、東上毛郡とあり。行々て一里計にして、はち屋村に至る。人家三百軒計、鹽濱にて聊の湊なり。町屋に商家もあれど、屋並の様きたなげにて、宿屋茶屋もなく、たゞうどん屋一軒あるのみなり。又一里にして沓川をかちより渡る。川

＊距離の単位＊

一丁（町）……109m

一里　……3.9㎞（約 4㎞）＝三十六丁

＊一里ごとに「一里塚」が置かれ、桜の木が植えられたという。

⑵伊能忠敬『測量日記』

伊能忠敬（1745-1818）千葉県出身。17歳で伊能家の娘婿。酒造業・米売業・貸金業等の家業を軌道に乗せ、50歳で隠居。隠居後、暦学を学ぶため江戸へ出て、幕府天文方の高橋至時に弟子入りした。正確な暦作りには緯度1度の正確な距離を知る必要があることから、蝦夷地測量さらには日本全国の地図作成を行った。

＊緯度1度＝28.2里（約110㎞）であることを突き止める。

・文化7年（1810）1月20日　大橋（行橋）～湊測量（湊村止宿）。
・文化8年（1811）1月22日　高瀬村（中津）～椎田測量（椎田止宿本陣客館）

＊日記には文化8年1月12日とあるが、22日の書き間違え。

・地図精度向上のため、天体測量も実施（本書14頁の地図の☆）。椎田・湊どちらも測量。

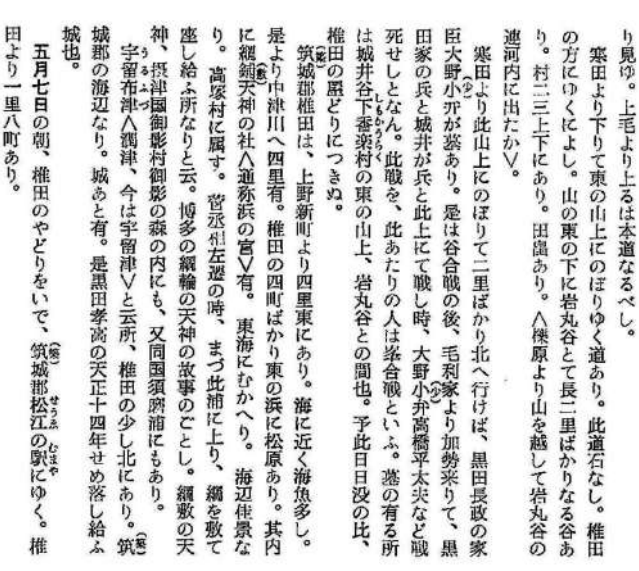
一月二十日　朝小雨、無程止て曇天、両手共六ッ後大橋村出立、後手我等、下河辺、青木、上田、平介、同所より初（今川を渡る、元永手永、川幅四十〇間）金屋村、平嶋手永今井村（平島手永十四ケ村之内、大庄屋平島甚左衛門）今井川へ祓川の下流を云うかゝを渡る（幅五十間）沓尾村（元永手永十四ケ村の内）（字）鼻道、姥ケ懐（彦山行者毎年正月二十八日来、祈祷すと）へこのことお汐井採り神事を指すゝ。元永村（元永手永本村）（枝）永井迄測（中食百姓伴蔵）（大橋より海辺一里一十六丁二十二間）先手坂部、永井、梁田、箱田、長蔵、元永（枝）永井より初、稲童村（同手永）松原村（同上）（中食庄屋武左衛門）夫より築城郡八田村（則八田手永七ケ村内、大庄屋八田保兵衛）宇留津村（同手永）高塚村（椎田手永九ケ村の内、大庄屋椎田常四郎）（綱敷天神宮、浜宮と云）椎田村（同手永）浜村（同上）迄測（元永村永井より海辺二里〇八丁〇八間）大橋村より浜村迄合三里二十四町三十〇間、浜村止宿（本陣村屋又左衛門）（別宿役人）（役所領主）両手九ッ後ニ着、終日曇、又小雨、此日豊後国府内松平起之助城下若年寄へ九州本へ町年寄ゝ渡辺久左衛門、同国岡中川修理太夫勝手方下役斉藤音七、三佐村庄屋加藤式平来向。此夜晴曇風、測量。

正月十二日　朝晴天、先手六ッ前、後手六ッ後、高瀬村出立、後手我等、青木、永井、（沢次、平助）止宿少し立帰、湯屋村辻印より初、万田村、高瀬村（即止宿）上毛郡（高瀬川幅七十五間）乗水村、八並村、大瀬村（ゞ川へ佐井川ゝ幅三十九間）（小笠原近江守領分）高田村境迄測（一里〇五町四十一間二尺）先手坂部、下河辺、（上田、箱田、長蔵）（小笠原近江守領）上毛郡高田村（ゞ川）北縁より初。（同領）岸井村、塔田村、今市村、小倉領八屋村（午ヘ文化七年ゝ正月二十二日へ九州本は十二日なるも共に誤で二十一日のことゝ残し印杭）迄測（一里〇九町三十二間）両手共、同所客館にて中食。無測にて椎田村へ九ッ後に着、止宿本陣客館（一同一宿。椎田大庄屋椎田常四郎）此夜晴天測量。

⑶貝原益軒『豊国紀行』

福岡藩主、黒田長重は家譜編纂を儒学者の貝原益軒に命じ、益軒は公式の視察旅行として豊前豊後の史跡調査を行った。その際の見聞録が『豊国紀行』である。

・元禄7年（1694）5月5日、直方の丹羽氏宅出発。途中香春道（香春・七曲峠・新町宿）を経て天生田から伊良原谷へ。
節丸　泊
・5月6日早朝、節丸出発。赤幡村から城井谷へ（香春道・求菩提道経由か）
・本庄の大楠、天徳寺、城井ノ上城址等を見て、櫟原から山越えで小山田谷へ。小山田谷と岩丸谷の間の尾根道を進み、大野小弁の碑を見て日没頃、椎田宿へ。



り見ゆ。上毛より上るは本道なるべし。
寒田より下りて東の山上にのぼりゆく道あり。此道石なし。椎田の方にゆくによし。山の東の下に岩丸谷とて長二里ばかりなる谷あり。村二三上下にあり。田園あり。へ櫟原より山を越して岩丸谷の道河内に出たかゝ。
寒田より此山上にのぼりて二里ばかり北へ行けば、黒田長政の家臣大野小弁が墓あり。是は谷合戦の後、毛利家より加勢来りて、黒田家の兵と城井が兵と此上にて戦し時、大野小弁高橋平太夫など戦死せしとなん。此戦を、此あたりの人は峯合戦といふ。墓の有る所は城井谷下香楽の東の山上、岩丸谷との間也。予此日日没の比、椎田の里どりにつきぬ。
筑城郡椎田は、上野新町より四里東にあり。海に近く海魚多し。是より中津川へ四里有。椎田の四町ばかり東の浜に松原あり。其内に綱純天神の社へ通称浜の宮ゝ有。東海にむかへり。海辺佳景なり。高塚村に属す。菅丞相左遷の時、まづ此浦に上り、綱を敷て座し給ふ所なりと云。博多の綱輪の天神の故事のごとし。綱敷の天神、摂津国御影村御影の森の内にも、又同国須磨浦にもあり。宇留布津へ潤津、今は宇留津ゝと云所、椎田の少し北にあり。筑城郡の海辺なり。城あと有。是黒田孝高の天正十四年せめ落し給ふ城也。
五月七日の朝、椎田のやどりをいで、筑城郡松江の駅にゆく。椎田より一里八町あり。

⑷各務支考『西華坊梟日記』

各務支考（かがみしこう）（寛文５年（1665）～享保 16 年（1731）は美濃国（岐阜県）出身で、26 歳の頃、松尾芭蕉に出会い、入門した。蕉門十哲の一人で美濃派の祖。俳諧を地方へ普及させた。（「西華坊」は支考の俳号。ほかに東華坊、獅子庵などの多数の俳号あり）

元禄年間以降、俳諧が九州各地に普及し、築上町周辺でも盛んになったのは、各務支考の功績が大きい。

- 元禄 11 年（1698）６月１日小倉上陸「是より九州の道、東西に分かれて行脚の志　定め難し」一句「笠に帆をあげてどちらへ夕涼み」中津街道へ（東へ向かう）→（中津街道）→６月２日大橋宿　元翠亭　泊「竹の子や茄子はいまだ痩法師」
- ６月３日　柳浦亭「美濃を出てしる人まれや瓜の華」「又越む菊の長坂秋ちかし」
- ６月４日　大橋の人におくられて浜の宮へ（中津街道経由）

その夜は綱敷天満宮もしくは松福寺に宿泊。同宿の僧侶「怒風」（美濃国出身）は筑紫からの帰りでこれから美濃国へ帰ると聞いて、ふるさとを思い出して一句「夏旅の馬ならばよきくろみかな」　→　翌日は中津街道を中津城下へ

六月四日

この日大橋の人〳〵におくられて浜の宮〈椎田町〉にまうづ。此神〈菅原道真〉のむかしこの浦に一夜の夢をむすび給ひしを、世に綱敷の天神とはあがめたる也。さるたびねは神たにあはれとおぼしたらんに、おろかなる人はましてぞや。

昼がほよ今宵はこゝにはまの宮

今宵はこゝに社僧の情ありて通夜〈参籠〉して終夜祈願すること〉申待るに、元翠・柳浦・桐水〈やはり大橋の人で「西華集」坤に二句載せられている〉などこゝにありて名残をおしむ。日暮て一袋〈桐水と会じ〉きたる。このあたりちかき椎田の人〳〵も、きゝをひ来りて、奉納の歌仙〈三十六句からなる連歌又は俳諧〉半におよぶ。夜更て朱拙〈「西華集」の乾坤ともに日田の人として句が載せられている〉・怒風など名のりて戸をたゝき来る。此人〳〵は黒崎のかたにありて、きゝおひ来れるにぞありける。朱拙のぬし続さるみの〈続猿蓑、芭蕉七部集の一つ。芭蕉が支考を相手に撰した俳諧撰集。元禄十一年五月刊〉を懐にしきたる。さりや此集は先師命終の名残なりしが、さる事の侍て武洛〈武蔵と京都〉の間をたゞよひありきて、今こゝに見る事のめづらしうも、かなしうもおもはれて、泪のさと浮たるが、人にかたるべき事にはあらずかし。そも今宵は田舎芝ゐのやうにつどひあつまりて、その朝は又はらはらにわかれ行に、僧の怒風はみのゝ国にかへるときけば、古さとのかたも恋しうぞ侍る。〈著者支考は美濃の生れ〉。此僧は我旧識の人なりしが、この春のころより筑紫の方にありて、彼は帰り我は行、そは又誰がために行、たれががために帰るならむ。いとまなき世のありさまかな。

夏旅の馬ならばよきくろみかな

⑸野田成亮『日本九峰修行日記』

- 文化 10 年（1813）10 月 12 日朝 8 時、島村（鳥井畑）出発。
- 求菩提山→（求菩提道）（西高塚道標）→（中津街道）椎田宿→金富神社（湊村「松蔵」宅に宿泊。
- 10 月 13 日椎田村へ配札（修験の御札を配り、浄財をいただくこと）
- 10 月 14 日湊村へ配札。昼食を盗まれて、一句「昼食をとられて今日の寒さ哉」
- 10 月 15 日朝 8 時出発。綱敷天満宮へ。奉納一句「綱の上に心して見ん冬の月」
- 綱敷天満宮→（香春道）国分寺へ→（香春道）（中津街道）元永、今井へ。

十月十二日　晴天。島村ヘ畠村ヲ立、辰の刻。道々托鉢湊村ヘ旗八幡ヘ椎田町金富神社、もと湊八幡宮矢幡八幡宮とも称していたヲへ詣納経。当村松蔵と云ふに宿す。跡より六部三人来り宿乞ふ様に見へたり、然れども我々共二人宿したればとて借さず、無拠出られたり。

十月十三日　晴天。滞在。椎田村と云ふに配札、昼過帰り休息。

十月十四日　晴天。滞留。湊村配札昼過帰り休息。今日も留主ヘ留守ヲに昼食を盗まれたり、因て一句

昼食をとられて今日の寒さ哉

十月十五日　晴天。湊村立、辰の刻。綱敷の天神へ詣で奉納一句、

綱の上に心して見ん冬の月

昼時国分寺へ詣て納経。夫より元永と云ふより今井と云在町ヘ明治二十二年四月に元永と今井が合併して今元村となり、今は行橋市に所属ヲへ出て、新左衛門と云ふ隠居新宅へ一宿す。

⑹江間氏親『両豊海上行嚢抄』

元禄 9 年（1696）の著作。九州東岸を船で南下した際の旅行記。海上からの視点で描かれる。

下関ヨリ
津々浦ッラ嶋　四里
箕島ヘ蓑島ヲ　四里
此嶋ノ内、何風ニモヨシ。スヘ湊ナリ。大沼ナレ共不レ苦。
椎田　四里
川湊口浅シ。奥へ入テハ、大汐ニハ大船モ入ル也。荷入船モ繋ル。奥深シ。

中津街道保存活用計画書

令和３年５月

発　　行：築上町
福岡県築上郡築上町大字椎田 891−2

策定協力：株式会社とっぺん
佐賀市鍋島町八戸 3190 － 3

印　　刷：有限会社京都印刷
行橋市中央３丁目３－１０

本書は令和３年３月に策定した中津街道保存活用計画書を普及版として印刷製本したものである。

中津街道 椎田宿

この冊子は築城飛行場関連再編関連特別事業で制作しました。